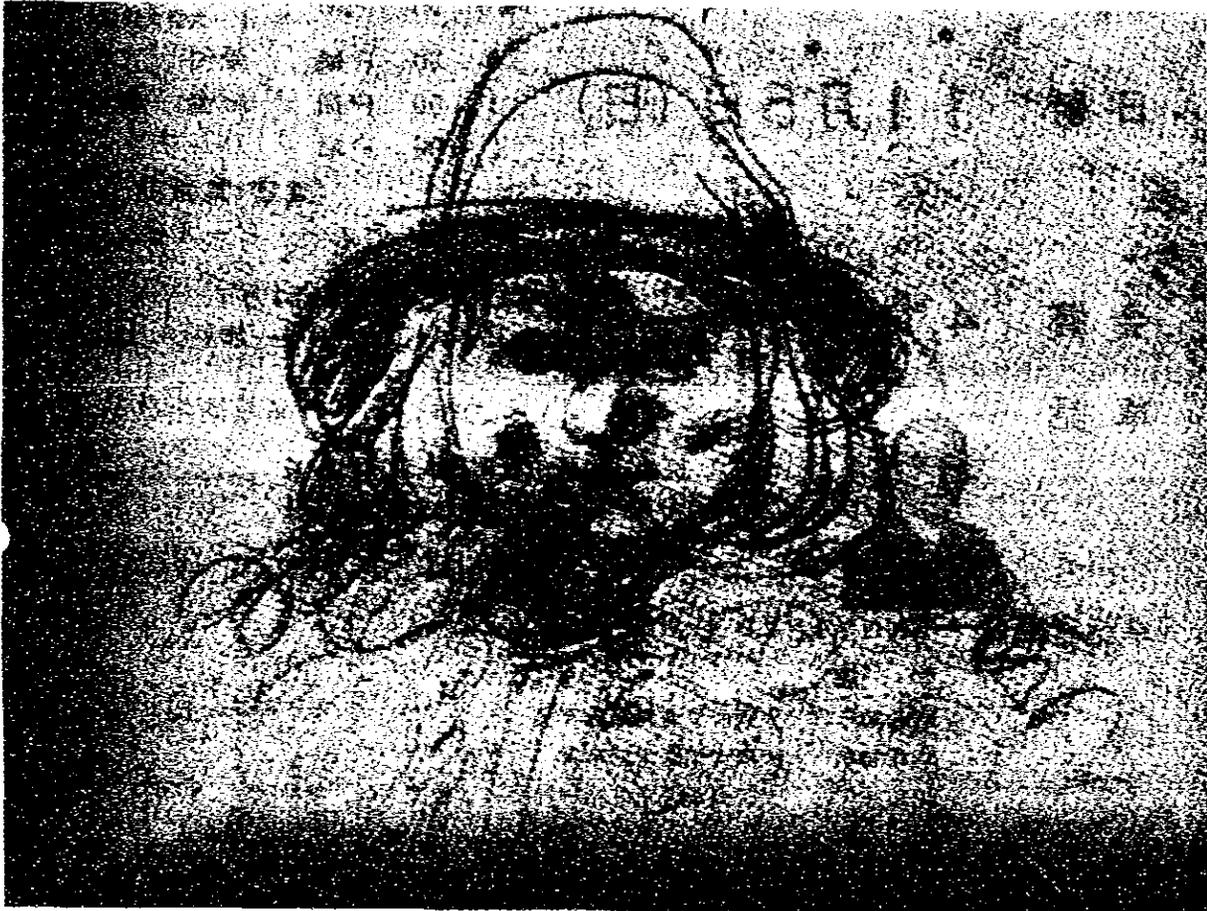


六稜舎報

平成元年10月1日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六稜同窓会
〒532 淀川区新北野2-5-13
電話 06 (303) 5661 代表
振替 大阪9-068025
六稜同窓会名簿刊行会
振替 大阪1-309004
編集 山本次郎・溝端正巳・阪田善雄
印刷 フジエフォート印刷
電話 0729-(87) 8254

NO. 22 1989・10・1



佐伯祐三 フランスの少女

田中徳蔵氏 (29期)
遺愛のデッサン

116周年総会

母校で

会場 北野高等学校 電話 06 (303) 5661 代表

日時 11月5日(日)

*10:00 AM	北野高校の全国高校ラグビー大会大阪府予選試合
0:30 PM	受付
1:00 PM	総会(講堂)
2:00 PM	パーティー開宴 (食堂・食堂前テント)

(新人歓迎 立食パーティー・ビール飲み放題)

会費 4,000円 (但し、S60卒以降—卒業5年以内と) ※乞う
卓話 S7卒以前—75歳以上の方 —無料) 出席通知

卓話



「心と心、心とからだ」…産業衛生の立場から

医療法人松柏会榎坂病院 院長
大阪健康倶楽部 理事長

関山守洋氏 (67期)

卓話者紹介 昭和11年1月2日 大阪府吹田市江坂に生れる

学 歴

昭和30年 大阪府立北野高校卒業

昭和36年 大阪大学医学部卒業

昭和36年 大阪大学医学部精神神経科学教室入局、精神医学、心身医学を専攻

職 歴

国立具病院、大阪大学精神科、大阪家庭裁判所、等を経て

昭和40年 医療法人松柏会榎坂病院 院長

昭和49年 大阪健康倶楽部 理事長

日本精神神経科学会評議員、大阪府医師会医学会評議員、日本精神病院協会常務理事、APA(全米精神科医協会) コレスポンディング フェロー、等

昨年の総会から

卓話 外交あれこれ

前駐英大使 山崎敏夫 (53期)

昭和10年に北野中学に入学し、その後は旧制高校・大学と東京に参りましたので今日は50年近い御無沙汰のおわびをかねて参上した訳でございます。

終戦時、学徒動員の為の仮卒業の身で民間の就職口もなく、外務省への入省を決めました。インドのボンベイの在外事務所の所員が海外勤務の最初でございましたが、その後、アメリカ局長、官房長を歴任した後に、大使としてエジプト・インドネシア・イギリスと8年近く海外に居り、この3月に帰国、6月に退官致しました。

私は、大使というのは何よりも、その国の土地に根をおろして、その国の人とあらゆる機会をとらえて真の人間関係を作っていくことが最も大事な仕事だと考えております。

エジプト・インドネシアという開発途上国での勤務は自然・生活環境の厳しさ、慣習の違いで随分苦勞を致しました。エジプトは「埃及」という表現そのままに街中砂に満ちておりました。又治安面ではサダト大統領の襲撃事件を至近距離で目撃するという怖い経験もございました。しかし、他方では歴史のある異質な文明と接する楽しみや、日本の海外への経済援助の橋渡しの仕事の面白味も体験致しました。

私が参りました頃のイギリスは、経済の沈滞化、政府の肥大化といういわゆる「英国病」の危機のさなか、サッチャー首相がさまざまな改革に着手しておりました。小さな政府の実現、国営事業の民営化、税制改革等、その後の日本が彼女に学んだことは多く、イギリスの変革は今後軌道にのっていきだろうと思われまふ。

3年間のイギリス大使在任中の印象深い事をいくつか申し上げます。

第一は、浩宮殿下をオックスフォード留学中に御世話申し上げたことでございます。殿下は、立居振舞いも立派で、多様なイギリス文化をエンジョイされ、イギリス

王室ばかりか英国国民にいい印象を与えられました。この御経験は必ずや将来に生かされるだろうと思います。又一昨年(昭和62年)のダイアナ妃、チャールズ皇太子の訪日の際には、東京サミットにからむ日程調整をはじめ、かなりの努力を尽くし実現にこぎつけました。こうした皇室間の交流も、ただそれにとどまらず、両国民がその心を通じ合わせるという重大な意義をもつものであると思います。

第二は、日英間の貿易摩擦ともいえる問題です。日本の英国への輸出量は、英国の日本への輸出量の四倍というアンバランスな状態にあります。最近、全日空が英国のエアバスを買い入れるなど、好転していくとは思いますが、構造的な問題がからみ、簡単にはいかない頭の痛い問題です。第二ボスボラス橋の問題もこのことに関連する問題です。アジアとヨーロッパをつなぐトルコのボスボラス海峡に二番目の橋をかけるプロジェクトで、日本の業者がイギリスの業者を押さええて工事権を得ました。国際入札の結果で正当なものだったのですが、日本政府の多額の融資制度がからんでおり、サッチャー首相が激しく非難した事件です。私は日本の立場を強く代弁したのですが、その後さまざまに起こった問題にしろ、共通しているのは、日本の市場がきわめて閉鎖的であるという反感が根強いという点です。しかし、こうした問題については、酒税の問題にしても、個別にひとつひとつ粘り強くのりこえていく他はなく、私もさまざまな努力を重ねて参りました。現在は、さほど大きな問題はなく、日英間は概ねうまくいっているのではないかとと思われまふ。

外交官というのは、国益の為には嘘をもつく、とかいわれます。しかし、勿論全てを喋らないことはありますが嘘をつくことは決してありません。なぜならすべての外交の基盤は、よき人間関係であり信頼関係であるというのが私の偽らざる実感でもあるからです。外交というのは、技術ではなく、結局は人間と人間との信頼関係を築き、人間関係を深めていくことでしかありません。それが、日本は確かに経済大国にはなっていますが、政治文化の面でも本当の意味での大国になる道だと思っております。(要旨)

年会費は 2,000円です !!

よろしくご協力をお願いします !!!

年会費制度の採用によって、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。納入は郵便振替を利用して下さい。

番号 大阪9-068025 名称 六稜同窓会

▲お手元の六稜会報郵送封筒の表の *印 は昭和63年度年会費納入済の印です。

東京六稜会第32回総会の報告

第70期幹事 松本邦宏

東京六稜会第32回総会は、平成元年6月9日午後6時から、日本工業倶楽部であいにくの雨にもかかわらず200人余の方が出席され開かれました。東京六稜会は昨年度から、開催の企画を各年度幹事が順番で受持つこととなり、本年度は第70期（昭和33年卒業）が担当しました。

総会は、岩木俊さん（第63期）の総会司会で始まり、先ず会長の河崎晃夫さん（第49期）が挨拶され、次いで、校長代理としてわざわざ大阪から出席された原田彰教頭から、学校の近況が報告されました。会計報告が承認された後、司会を村井恒子さん（第70期）にバトンタッチし、記念講演に入りました。本年度の講師は、第70期の門良一さんで、演題は「天上の音を求めて—モーツアルトと私—」でした。門さんのことは関西方面の方のほうがよくご存知だと思いますが、現職は京都産業大学の物理学の教授ですが、趣味の音楽好きが篤じて、昭和45年モーツアルト室内管弦楽団を結成、以来その指揮者として活躍され、2年前には藤堂音楽賞を受賞、また昨年、東ドイツ民主共和国文化省の招きで、楽団を引きつれて演奏旅行をし、大成功を取められている人です。講演は、門さんの音楽遍歴とモーツアルトの魅力について、時にユーモアをまじえながらの楽しいものでした。ところで、本年の総会がユニークであったのは、この講演の後に、4人の京大オーケストラOBによる生演奏が行われたことです。4人の奏者は、佐佐木佐さん（フルート、京大理学部卒、現在、東京交響楽団首席奏者）、柳生峰人さん（ヴァイオリン、京大工学部卒、キャノン勤務）、石津啓介さん（ヴィオラ、京大工学部卒、横浜市役所勤務、北野高校第91期）、森口真司さん（チェロ、京大文学部卒、東京芸術大学音楽部指揮科在学中、北野高校第95期）で、北野の卒業生2人に、部外からも2人の参加を得てのメンバー編成でした。曲目は、モーツアルトのフルート四重奏曲二番K.285。こちよい音色が会場に響きわたりました。演奏会終了後、会場をかえて、パーティに移りました。乾杯を出席者中最長者の目黒太郎先輩（第40期）にお願いし、懇談に入りました。いつもながら、会場にあふれんばかりの人々で、移動もま・ならぬ程でした。約1時間ほどの懇談の後、前年度入会の眼目大一人から、新人歓迎の辞が述べられ、新人37人の自己紹介がありました。こ・で当期幹事の役割は終了し、次期幹事となる第71期生出席者が挨拶して、次期総会に向けての決意が表明されました。毎回、総会の最後をかざるのは校歌の大合唱ですが、本年度は、総会の際、生演奏をしてくれた4人の方々が残ってくださり、初の伴奏つき、門さんの指揮までついた合唱となりました。一度一番から五番まで歌いましたが、それでは終わらず、アンコール、アンコールを重ねるといふ盛り上がりを見せました。そして最後に、母校の繁栄と参会者の多幸を祈って、万才を三唱し、無事、本年度の総会を終えました。

七十年前の思い出

中江喬三（大正4年卒 28期）



七十年の昔は遠く過ぎ去った。しかし、その思い出は深い。佐伯祐三君は北野中学では私より2年下。更に2年下には桐原真二君がいた。彼は有名な慶応の大選手で、卒業後は大毎に勤めていた。彼とは屢々遇って話することもあったが、佐伯君とは卒業後一度も遇ったことがない。佐伯君は北野中学の野球選手で中堅を守っていた。異色の存在であった印象が深い。練習の際、球を後逸しても拾いに行こうともしない。平然としていた姿が眼に浮かんでくる。彼は無口の少年であったが、天衣無縫、純情そのものようで、そのなかに後年の天才的芸術の情熱が潜んでいたように思われる。

彼の遺作はあちこちの展覧会で視ていた。その多くはフランス留学中の作品で、その中の自画像は今でも眼に深く残っている。佐伯少年のイメージとは大分違っていた。彼のことは彼と親交のあった田中徳藏さんから屢々聞いていたので忘れてはいない。遺作は徳藏さんのお宅に残っている筈である。

ポプラの並木にかこまれた北野のグラウンドで共に野球をやっていたに違いない。しかし、そのことは殆んど記憶に残っていない。その頃から異色の存在であったことが思い出される。彼の優れた異材は惜しまれてならない。短命であったが、彼の芸術は永遠に輝いている。

（平成元年8月22日 記）

大阪府立高等学校勤務の卒業生皆様へ

昨年より、本校卒業生で、大阪府立高等学校にご勤務の方々の名簿を作成しております。名簿を既にお配りしておりますが、不備の点もございますので、情報をご存じの方は、下記までご連絡いただければ幸いです。

〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13

大阪府立北野高等学校内 原田 彰 宛

東京六稜会事務局

〒160 東京都新宿区左門町14

TH左門町ビル101号室

社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟本部
事務局長 檜川 哲次

電話 03-357-3741

会 務 報 告

第1回常任理事会(平成元年6月23日)於清交社
出席者 上野会長、鴻池副会長、藤枝校長、緒方、
大山、奥田、稻崎、丸野、溝脇、木村各常任理事、
学校から原田教頭(65回)、事務局から平、阪田。

1. 役員後任の件、田村理事の後任を、奥田理事に
願う。
2. 昭和63年度会計報告及び平成元年度予算案
3. 六稜同窓会名簿発行について
今回発行する。5年毎の発行とする。小委員会
を組織する。
4. 総会について 11月5日、母校とする。
5. 山岳部全国大会出場に際し、50万円寄付を決定
(後備一式)。

第1回理事会(平成元年7月14日)於 清交社
出席者 鴻池副会長、藤枝名誉会長、各期理事及び
事務局より、計48名

1. 役員後任の件、田村理事の後任を奥田理事に。
2. 昭和63年度会計報告及び平成元年度予算案
3. 平成元年度六稜同窓会名簿発行の件
3000部印刷、1冊4000円、発行を11月とする。
4. 本年度総会について
総会のあり方、運営の仕方について意見が出、
常任理事会に一任。(9月11日常任理事会予定)

*

別府審一理事(S4年卒)が亡くなりました。
謹んで哀悼の意を表します。

会 計 報 告

昭和63年度 六稜同窓会 一般会計報告

科 目	63年度予算	63年度決算	備 考
収 入 の 部			
1. 前年度繰越金	607,621	607,621	
2. 入会金収入	1,937,000	1,925,000	1,925人× 1,000円
3. 年会費収入	7,500,000	8,159,000	4,079.51人× 2,000円
4. 広告収入	100,000	0	
5. 臨時会費収入	500,000	837,000	279人× 3,000円
6. 寄付金収入	10,000	32,480	
7. 利息収入	20,000	4,043	
8. 雑収入	10,000	0	
収入合計	10,684,621	11,565,144	
支 出 の 部			
(1) 運営費	*4,180,000	*3,514,620	
1. 人件費	1,000,000	600,000	
2. 旅費・交通費	250,000	248,000	
3. 通信費	120,000	98,750	
4. 印刷・事務用品費	60,000	60,000	予算超過により 予備費から支出
5. 会議費	350,000	315,380	
6. 総会費	1,500,000	1,500,000	予算超過により 予備費から支出
7. 慶弔費	600,000	392,490	阪神親睦会品料 を含む
8. 雑費	300,000	300,000	予算超過により 予備費から支出
(2) 会報発行費	*3,970,000	*3,716,350	
1. 編集費	100,000	90,000	
2. 印刷費	2,460,000	2,285,830	
3. 発送費	1,400,000	1,340,520	
4. 雑費	10,000	0	
(4) 予備費	* 534,621	* 652,926	予算超過分は、 1. 運営費の残り から支出
4. 印刷・事務用品費	0	19,990	
6. 総会費	0	631,250	
8. 雑費	0	1,686	
(5) 他会計へ支出	*2,000,000	*2,000,000	
1. 基金積立会計	1,500,000	1,500,000	
2. 名簿特別会計	500,000	500,000	
支出合計	10,684,621	9,883,896	
次年度繰越金	0	1,681,248	

昭和63年度 六稜同窓会名簿特別会計報告

科 目	予 算	決 算	備 考
収 入 の 部			
1. 前年度繰越金	2,199,407	2,199,407	
2. 名簿売上収入	30,000	54,000	18冊× 3,000円
3. 広告収入	0	0	
4. 利息収入	70,000	85,568	
5. 雑収入	0	0	
6. 一般会計より受入	500,000	500,000	
収入合計	2,799,407	2,838,975	
支 出 の 部			
1. 編集費	0	0	
2. 印刷費	800,000	871,003	註*
3. 発送費	5,000	3,800	
4. 雑費	1,000	100	
支出合計	806,000	874,903	
次年度繰越金	1,993,407	1,964,072	

名簿在庫 前年度残225冊、売上18冊、寄贈池3冊、次年度繰越204冊
註* 名簿台帳の印刷

昭和63年度 六稜同窓会基金会計報告

科 目	決 算	摘 要
収 入 の 部		
1. 前年度繰越金	49,946,559	大和銀行金銭信託及び 普通預金 註
2. 利 息	2,276,428	大和銀行金銭信託
3. 新規積立金	1,500,000	大和銀行金銭信託
収入合計	53,722,987	
支 出 の 部		
支出合計	0	
次年度繰越金	53,722,987	大和銀行金銭信託

註 既に金銭信託に移管済

以上の通り昭和63年度六稜同窓会会計報告をいたします。

平成元年6月21日

六稜同窓会会長 上野 洋一

本会計の正確であることを認めます。

平成元年6月21日

六稜同窓会監事 清 井 尚 三

六稜同窓会監事 栞 田 圭 兒

記者の目

く、トランプの顔であつた。数年來、体の不調が伝えられ、突然入院加療された噂もあつたのだが、そのときも「まだ元気だぞ」ともたふたふと語られた。それから間もなく、入院して胃の大半を切除する手術を受けた。その間、夏の暑さを堪えかねたのかから新しい運動服も揃えたが、秋以降は健康に体調が戻った。それでも仕事を休んでいたが、十一月末に再入院して今年九月、歸国したのだ。

手塚マンガ抜きには語れぬ戦後

手塚の日本文化を考へて、手塚マンガを抜きに語れぬ戦後

「アトム」ジャングル大帝で民主主義学んだ

明るさ、思いやりの中に筋通す



出でよ！ 次代のリーダー

手塚さんとその作品の登場人物(動物)たちもまた神々であった。戦後民主主義は私にとって手塚マンガの中にあつたと思つてくれた。

いつまででも読み返したい

一九八七年度の毎日映画コンクールで手塚さんは傑作となつたアニメ映画「狼の伝説」で大躍進を遂げたのだが、日本のアニメの大先輩・大塚氏の業績を記念して一九六二年度に授けられたこの賞の第一回の受賞者が手塚さんであり、受賞は四回を取える、異例的な短編アニメも多かった。

もう一度語りたい。戦後の(子)市マケットの中のバラック本屋で「怪盗黄金バット」「火曜博士」「月世界神止」「仮面の冒険児」「ロスト・ワールド」前世記」などラジエ二巻刷りの原簿マンガを買って夢中で読んだ。そのいくつかはいまも大事に保管して置いている。いつまでもお楽しみ願う。時に読み返すつもりである。

手塚マンガ抜きには語れぬ戦後

手塚マンガ抜きには語れぬ戦後

手塚マンガ抜きには語れぬ戦後

手塚マンガ抜きには語れぬ戦後

手塚マンガ抜きには語れぬ戦後

1989. 2. 15
毎日新聞
朝刊より転載

政を為すに、いづくんぞ 殺すを用いんや

加地 伸行 (67期 阪大文学部教授)

北京の天安門広場における大量殺人は、われわれ日本人にさまざまな反響を起こしている。

私の弟子は、いま上海に留学中である。ただちに指示を与え、母親にも連絡をした。それが、弟子に対する師匠の気持ちというものである。殺された中国人学生に対して、その指導教授はどのような気持ちでいることだろう。

中国の遠い昔、孔子は祖国である魯国の大臣と、次のような問答を交(か)わしている。

大臣は、孔子にこうたずねた。「もし無道を殺して、もって有道(ゆうどう)に就(つ)かめば、何如(いかん)」と。このことばは「ルールに従わない連中(無道)は、見せしめに殺してしまい、そして人民を為政者(有道)に従わせれば(就かめば)、効率よく統制できると思うが、どうじゃ」という意味である。

この質問に対して、孔子は静かに答えた。「子(し)政(まつりごと)を為(な)すに、いづくんぞ殺すを用いんや。子 善(ぜん)を欲(ほ)せば、民 善(ぜん)なり(顔淵篇)と。孔子は、「政治をなさるのに、人民に対してどうして殺すという手段など使う必要があるでしょうか。あなたが善であろうと心がけなされば、人民はかならず善となりましょう」と述べたのである。

孔子は、人の生命を尊んだ。あるとき、孔子の家の馬小屋が火事で焼け落ちたことがあった。孔子は勤務が終わって、家に帰るとまさきに「人を傷(そこな)えるか(人にけがはなかったか)とたずねた。愛した馬のことはなにもたずねなかったのである。ふつう馬小屋が焼ければ馬の安否を問うものであろう。しかし、孔子はそんなことよりも人間が巻きこまれていないかと心配したので(郷党篇)。

それだけに、行動力がある子路(しろ)という弟子のことが気がかりだった。ひょっとしたら、不慮の死をとげるのではないかと予言さえた(先進篇)。事実、子路は仕えていた国で起こった騒乱に巻きこまれ、主人を守るために敢然として立ち向かったが殺された。そのとき、あごの下に結んでいた冠(かんむり)のひもが切れた。子路は、重傷を負いながらも、孔子から学んだ礼の作法どおり、「君子は冠を落とさないぞ(おれは正しいぞ)」と叫び、ひもをきちんと結び直して、息絶えた。

北京の学生たちは、死の寸前、薄れゆく意識の中で、どのような気持ちで心のひもを結び直していたのであろうか。

(1989・6・20・毎月新聞夕刊 連載「一千字論語」より)

日本が来りし行れた。手塚治虫の人生は、自己生み出した映画アニメのようには不滅ではなかった。いつか想いするにしても六十歳は早すぎる。十三日(日)午後二時、東京都港区の青山霊園の墓地に葬られた。人々の多くは手塚治虫の時代を懐かしむ。手塚治虫の時代を懐かしむ。

を述べた。手塚治虫の人生は、自己生み出した映画アニメのようには不滅ではなかった。いつか想いするにしても六十歳は早すぎる。十三日(日)午後二時、東京都港区の青山霊園の墓地に葬られた。人々の多くは手塚治虫の時代を懐かしむ。手塚治虫の時代を懐かしむ。



松島 利行 (編集委員)

手塚治虫氏へのレタイエム

手塚治虫と関係に際した。たまたまがわらず、手塚治虫の人生は、自己生み出した映画アニメのようには不滅ではなかった。いつか想いするにしても六十歳は早すぎる。十三日(日)午後二時、東京都港区の青山霊園の墓地に葬られた。人々の多くは手塚治虫の時代を懐かしむ。手塚治虫の時代を懐かしむ。

手塚治虫の人生は、自己生み出した映画アニメのようには不滅ではなかった。いつか想いするにしても六十歳は早すぎる。十三日(日)午後二時、東京都港区の青山霊園の墓地に葬られた。人々の多くは手塚治虫の時代を懐かしむ。手塚治虫の時代を懐かしむ。

北野戦後史

題字 泉 徳二元校長



— 連載第12回 —

淀の流れは 絶えずして 野々村 博

六稜の星のしるしを青春の顔にかざし、紅顔の子弟千有余……七十余年花は薫りぬ。

六稜の各世代が懐旧の歌声を合わせると微妙に違う…の個所である。今や百有余年であるが我々が紅顔の教師であった頃は七十余年、今でも歌う時は七十余年なのである。各世代頑迷に守り通す青春の記憶であろう。六稜の体育にも百有余年の歴史があるわけであるが、私が体育科の一員として在職した30年を振り返って書き止めてみたいと思う。

北野の体育歳時記

体育科は何故好き好んで、そんなに行事ばかりやって自分を苦しめるのだと言われたことがあるくらい、北野には体育行事が多い。

〈夏の水泳大会〉〈秋の体育大会〉そして〈冬の新郊競走〉を3本柱に、更にいくつかを配して年間の行事計画が組まれている。これらは平素の体育授業の成果を発表する場として計画されているのである。特にこの三大行事には十分な練習期間を設け、授業との関連の下にみっちり鍛えられるのが特色である。そして、いずれも全員参加を大前提に出場回数を可能な限り多くするとの基本方針に基づき計画されている。そのためには限られた時間内に組み込まれた超過密スケジュール、あたかも朝夕のラッシュ時の電車のダイヤのように、秒単位で処理していく組織力と機動力が不可欠の要素となっている。北野の体育行事に対する評価は、内容面の充実は勿論のことこの超過密スケジュールを予定時間内に無事終了させることが出来たか否かに対しても厳しい評価がくだされるのである。そしてこれは平素からの学習習慣があってこそ可能なのである。一例をあげると、北野の教育の核心は授業を大事にすることであり、授業時間を無駄にしないことである。教師は「始業5分前」の精神よろしく、始業のチャイムが鳴る前に廊下で待機、鳴り始めるや即ち教卓の前に立つのである。屋外も例外ではない、始業前には既に体育服装に着替えた生徒が三々五々トラックを

走っている。始業のチャイムが鳴り終るまでにトラック2周を走り終わらなければならない。ここでも「始業5分前」の精神が浸透し遅刻は許されないのである。この厳しい普段の時間感覚と適応行動が相まって行事における過密スケジュールも整然とこなされていくのである。

北野の体育は鍛練主義である。生徒の自主性を育成し、彼等の自主的活動をサポートするのが民主教育というものかもしれないが、より強い心身にこそ、より自主的成果が花開く可能性が生ずると信ずるからである。昭和43年に火の手が上がった大学紛争の余波は高校にも波及し、翌44年は高校紛争が顕発した年であった。多くの高校が生徒自治・民主化の名の下に服従を自由化し、学校行事を生徒会の運営に委ねる風潮が強まった。北野もその例に洩れず学校主導の諸行事に対する門戸開放要求が高まった。学校主導の最右翼にあった体育行事に対しては更に強く、生徒会と体育科の話し合いが再三もたれたが、他校はいざ知らず北野の体育方針は不変であると譲らなかつた。頭でっかちのもやしっ子を世界の舞台に送り出すわけにはいかない。頑健な身体と強靱な精神力を培うことこそ真の自主性育成につながると考え、ひたすら“鍛えよ！鍛え”の方針を貫いたのである。世界に翔く若鷺の育成を念頭に、常に一流を志し世界的視野でものを見、考え、判断できる人間を育てるために我々は努め、この方針によって必ず育つというのが我々の信念であった。

「北野の体育30年の歩み」(昭32~61)を回想するとき、これら体育的行事を季を追って順に記載していくのが至便であろうと考える。

〈大手前交歓試合〉6月

昭和23年の学制改革によって、職員・生徒の半数ずつを互いに移籍し男女共学校として再出発した兄妹校が、年を経ると共に交流も疎遠になっていく傾向を鑑み、親睦交流が今後未長く継続することを希ってスポーツ交歓試合が計画され、その第1回交歓会が昭和31年に開催された。翌32年12月8日付の毎日新聞にこのスポーツ交歓試合が大きく報じられ次のように紹介されている。“スポーツ対校試合に新しい試み”“在校生の半数が参加”との見出しに続き“他校では運動クラブ間の総合大会が2校間で行われているケースは多いが、一般生徒を対象としたスポーツの親善試合は珍しく、しかも出場者が在校生の半数を超えるというのは例がない”と記している。

試合当日は短縮授業で4限行い、大手前会場で試合のある生徒は待機中の10余台の貸切バスに分乗し出発する。大手前から同様にバスを仕立てて北野へやってくる。各会場で開会式が行われ、引き続き競技が開始される。種目は春の授業で行なった陸上競技(リレー)とバレーボールを中心に、柔剣道場やテニスコート・卓球場はそれぞれのクラブ同士で試合を行わせる等して施設を100%活用し、出場人数を増やすことに腐心した。初期には陸上競技は北野が圧倒的に優勢であったが、バレーボー

ルはほぼ互角であった。所が40年台後半辺りから両校の競技成績は何れの面でも互角となり、両校の物理研究部の間で交信される経過報告が新聞部の手で掲示板に発表されるや、その都度一喜一憂したものである。

交通事情の悪化に伴って貸切バスによる輸送を取り止め電車を利用するようになった。その頃から両校の生徒自治会での話し合いから交歓試合の見直し、交歓に重点をおいたミーティング方式の採用を強く迫ってきた。しかし体育科は、スポーツ交歓にこそ体育的意義がありミーティング中心の交歓は意とするものではないとこの要求を退けた。その後も毎年のように改革要望が出され、実際に教室でミーティングを行なったクラスもあったようであるが盛り上りを欠くものであったらしい。その中、大手前高の自治会祭が繰り上り、日程調整が難しくなったことと、運賃値上げによる経費負担増を理由に昭和51年を最後に21年間に及んだ両校の交歓試合は幕を閉じ、代って翌52年から新たに校内球技大会が発足した。

〈水泳大会〉9月

北野の50mプールは昭和18年太平洋戦争激化の最中に生徒の勤労奉仕によって作られたもので、その記念の年に第1回大会が開かれている。それ以後この手造りのプールにおいて、全員皆泳の旗印の下、夏期体育授業は水泳一本という密度の濃い訓練が始まったのである。25mプールが横に3面余とれる50mプールという大きな器があつてはじめて全授業を水泳に充てるのが可能だったのである。昭和40年台の前半頃までは、浮くことも出来ないいわゆる金槌がかなり見られた。大学の水泳実技で単位を買えず、夏休みに母校のプールへ金槌返上を目指して通ってくる女子卒業生が見られたのはこの頃で、特に阪大は厳しいようであった。しかし小学校にプールが完備されるにつれて金槌は姿を消し、体育授業は「泳げる」ことを前提に正しい泳法の習得と距離泳に重点が置かれるようになった。

第二次ベビーブームで学級数が10に増えた昭和37年から水泳大会は、プールを横に使用する25m短水路で実施するようになった。しかしスケールの面で些か物足りなさがあり、50mを一気に泳ぐのと25mを折返すのでは泳力にも影響するとの危惧を感じるようになった。巷においてはスイミングスクールが続々開校され、10代前半の児童生徒の記録が飛躍的に伸び、成人と伍して競技できる力をつけてきたことからこの方法は間もなく廃止され、学年制を止め全学年を一緒にコース配分し、50mの長水路の競技会に戻された。

秋風が立ち始める頃に水泳の追試が始まる。この頃になると浄化装置のついていなかった旧プールは、予算上換水もままならず日増しにアオミドロの緑化現象が進行し、少し潜ると上から見えない位であった。生物研究部が文化祭で「北野プールと淀川の水質汚濁比較」の研究を展示発表したのは30年台後半であったと思う。当時の淀川は、流域工場群の生産活動が急ピッチで進められ、

その排水による汚染・汚濁がひどかった。その淀川よりもプールの汚濁がより強いとのショッキングな内容であった。但しプールの汚濁は主として水の腐敗に伴う藻類の繁殖によるものであると思われた。それにしても大きな事故も病人も出ず、アオミドロの中で泳いだ当時の生徒は強かった。これら衛生上の問題と洩水による莫大な水道使用料に音をあげた当局から学校へプールの全面改修の打診が再三もたらされたが、それは府立高校の共通規格である25mプールへの改修プランであった。“燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや”鴻鵠の志を育てる北野の教育方針に將に逆行するプランであり、生徒諸君には気の毒であったがしばしば汚濁プールで辛棒して貰い、50mの大きさに固執したのである。昭和45年、漸く50mプールの復元が認可され、風雪に堪えた手造りプールが取り壊された。プールサイドのコンクリート下は大きな空洞が連なり洩水の激しさを物語っていた。コンクリートの中からは、鉄筋に混じり多数の竹が出てきた。戦時中の鉄材不足を補うべく竹を代用した竹筋コンクリートプールであったわけだ。戦争激化、資材統制の中、50mプールを自らの手で築き上げた北野の先達の心を思い胸に迫るものがある。

昭和46年苦節10年、待望のプールが竣工した。浄化装置の完備した50m公認プールである。掃落しの日、まばゆいばかりのコンクリートの白きと、満々とたたえられた輝く水の青さが印象的であった。以来、緑色不透明な旧プールでは禁止していた潜水も解除された。更に高くなったスタート台からの飛び込みが女子にも義務づけられるようになった。恐怖のために顔面蒼白、震える足はスタート台の前方へ進むことも叶わなかった女子生徒も、やがて正規の逆さ飛び込みを何の抵抗もなくやってくるように逞しく変身する。欠席・見学した場合は、この飛び込みつきの自主補講500mを男女差なく泳がねばならない。男子生徒の目もものは、未だ水のしたたる水着のまま、補講終了の報告に体育教室へやってくる逞しい女子生徒の姿も日常であった。

〈体育大会〉10月

体育行事の中心となる体育大会は、その時代の社会的背景の変化に対応して内容を変え、名称を改めてきた。昭和15年までは陸上競技主体で名稱も「運動会」一本であったようである。所が太平洋戦争が始った昭和16年に軍事教練と直結する郷弾投などの種目が加わり「国防競技会」と改稱、次いで昭和17・18年には「体育錬成会」と改めますます軍事色濃厚な種目が追加された。戦争激化の19年に運動場は遂にさつま芋畑に変身、運動会は中止された。そして昭和21年、戦後第1回の運動会が復活した。

昭和39年東京オリンピックの年、多くの高校が生徒自治の名の下に名稱も「体育祭」と改める中、北野は「体育大会」と改稱し、お祭路線を襲う他校とは袂を分かつた北野独自の体育大会を押し進めていくこととなる。

開会式での入場行進には特に力を注ぎ、クラス旗を先頭にして歩調を合わせ整然と行進できるようみっちり訓練される。号令のかけ方、旗手の動作に至るまで個々に特訓さえ行われたのである。しかし、その旗手によってリードされる各クラスは、それぞれに演出をこらして行進し、さながらオリンピックで各国のお国柄を楽しむが如き観がある。北野の体育大会を参観するなら、この入場行進に始まる開会式を見落すことができない。生徒自治会役員が奉持する校旗を先頭にした入場行進、3階バルコニーからオーケストラ部員が吹奏するファンファーレは、年毎に新たに生徒が作曲するものである。クラス旗が中央に扇形に並ぶ中、陸上競技部主将による声高らかな選手宣誓、これぞ正しくモデルとする国民体育大会の開会式そのものであり、ここにも一流を目指せ、完璧に事を成せの精神が一貫しているのである。

競技種目は、力とスピードを競う陸上競技を主体とした競走種目、学年全体で演技・競技する団体種目、走ることが不得手な者でも楽しめるリクリエーション種目の三つの柱で構成されている。昭和30年台から40年台の前半までの団体種目は、3年が棒倒し、2年が騎馬戦、1年が組立体操そして女子のダンスとメニューは決っていたものである。その後、組立体操とダンスは練習に相当の時間を要することから削除され、2年生は男女とも団体種目は仮装コンクールに置き換えられて今日に至っている。

北野名物の仮装行列は、昭和39年から登場、初期の頃は2・3年の2学年で行なっていたが、必要以上に時間を食い、その上仮装準備のため多数の生徒が動員され競技がおろそかになったことから、仮装は2年のみとし3年生はヨチヨチリレーに扮装を凝らすのを許可することで折れ合った。仮装の内容も、初期の社会諷刺調から巨大作品製作の傾向へと移り、そして演技力で評価が左右される演じものへと様子が変わっていった。材料も使い捨て時代の反映から、無料で豊富に手に入るダンボール箱が主流を占めるようになった。仮装への生徒の入れ込みようは大変なもので、大道具などそのまま壊すに及びず十三商店街へのパレードを願い出た学年もあった。

昼食時には運動部のクラブ対抗リレーが行われた。時には専門家の陸上部を凌ぐクラブが出て大声援が飛び交うこともあった。しかし山岳部や柔道部に競走させる無意味さからリレー競技は取り止め、代りにクラブ紹介の演技や試合が行われるようになった。

人気種目の一つに1年男子の豊作リレーがある。重さ30kgの砂を積めた袋をかたぎ、1人でトラック半周を持ち運び8人で4周(1000m)をリレーする競技である。これは職員チームが最も得意とするところで、昔鍛えた足腰の強さと懐かきぎのテクニックがものをいう。スピードでは分が悪い職員チームは「兎と亀の競走」よろしく後半にじりじり追いつけるスリリングなレースで、場内の大喚声を浴び常に上位入賞を果している。米の大豊作の年にこの名がつけられたのであるがそれ以後豊作続きで種目名も7年連続豊作リレーとして実施された。

体育大会の最後は、男子の1000mリレーと女子の500mリレーでしめくられる。その直前がクラスの全力を投入したお祭り騒ぎの仮装行列である。急いで拭き切れなかった扮装の名残りをあちこちに止めながら、クラスを代表する若者が打って変った真剣さで鉢巻を締め、バトンを握りしめて疾走するのである。応援する者は手を拍ち、声を囁らしながら、傾く日差しの中に今年の体育大会終焉の気を感ずるのである。

〈断郊競走〉2月

楽しい正月休みが明けると魔の長距離走が始まる。2月恒例の断郊競走を最終目標に、耐寒訓練と心肺機能強化のための長く厳しい1ヶ月余のトレーニングである。

断郊競走の発祥は昭和10年に遡る。十三の新校舎に移って5年後のことである“淀川の深き流れよ 六甲の雲いる嶺よ”と唱われる校歌そのままに、淀川堤で昭和10年に断郊競走が、次いで14年には六甲山にて全校登山が始まっている。六甲登山は間もなく中止されたようであるが、淀川堤での断郊競走は絶えざる淀川の流れの如く連続と今日に引き継がれている。ただ、戦時中に一時中断し、戦後復活の折、極度の食糧難時代に無理することもなしとの反対意見もあったとかが、青年の気力・体力を練磨する機を逃してはいけなとの熱意で昭和22年に復活した。

昭和30年台前半頃までの断郊コースは、学校前の淀川堤を川下へスタートし、淀川大橋を渡り対岸を上流へ向い、女子は十三大橋を渡り1周する6kmコースを、男子は更に上流へ、長柄橋を渡り引き返す1周12kmのコースが定着していたが、集団で橋上を走ることを禁ぜられてから折返しコースに改められた。その上、堤防の嵩上げ工事や河川敷の造成工事が毎年どこかで行われ、その都度コースを変更して走り続けた。最長コースは、赤川鉄橋を折返す往復13kmであったと思う。河川敷工事が完了した50年台から長柄橋を折返す5kmコースを、女子1往復・男子2往復する方式が固定化されるようになった。

新春を飾る大学箱根駅伝の幸駄天男、須原先生が北野に赴任されてから長距離走のトレーニングは、科学的により緻密に計画され授業に組み込まれた。そのために持久力は一段と伸び、毎年6月に実施される全国スポーツテストの持久走の種目では、全国平均を大幅に上まわる好結果を生み出すに至った。

時代は変わって淀川を吹き上ってくる寒風は肌を刺すように痛い。時に川霧の立ち籠める單調な堤防上を、白い息をはずませながら黙々と走り続ける若者の姿は、厳しさを超越し美しくさえ感じられたものである。

冬が訪れ、卒業生が母校を語る時、必ずといっていいほど苦しかった断郊競走のことが話題に上る。そして最後に「死ぬ程しんどかったが良い体験を得た。断郊競走はこれからも残して欲しいし、後輩にも頑張って走って貰いたい」と言い残すのである。

往時の職員の思い出

昭和32年、私の着任当時の体育科は、古い北野を語る時必ずといっていい程登場するピンクこと平石先生を筆頭に稲葉・大前・野々村・羽根の5人である。伝統ある北野ラグビーを支え、女子バレー部をも鍛え通称3ちゃんと呼ばれていた中島先生の後任に野々村が、女子バレー部で歴々たる戦績を築いておられた塚田先生を受けて羽根が着任したのである。平石先生は大阪の体操界を牛耳っておられ、大前先生もそれをサポートしつつダンス部を育てておられたその関係上、放課後の体育科周辺は各校の体操関係者の出入りで、さながら体操事務所の親があった。平石先生には、北野の体育に対する理想と信念があった。世界をリードしていく子弟には、トップレベルの知識とそれを体現する方法と支える体力を与えるべきだ。北野生にはそれを受けとめる力があるといわれていた。その独断的・飛躍的言動は時に誤解を伴い反撥を買ったりしたが、今、先生を知る人は皆、懐かしく当時を偲ぶに違いない。府立高校に数少ない50mプールを擁する六稜水泳部育ての親は稲葉先生である。水泳指導の傍らプール管理一切を取り仕切り、周辺の植栽まで手を伸べて手入れしておられた。グラウンドでは、ソフトボールを率いての猛訓練、イナバの黒兔の異名がつく所以である。

六稜の水泳にはもう一人忘れられない人がある。国体出場経験のある田上先生である。常に生徒と共にあり、自らも日々1000mは泳いでおられたと思う。その泳法は、静なる速さでもいおうか無駄を省いて、水しぶき一つ上げず悠然と水を抱き込んでいくようであった。ひとりゆったり泳がれる時、大きなプールの行く手の水はあくまでも滑らかで波紋は彼の手の先から始まる。クロールとは盛大にしぶきをあげて泳ぐものと、信じて疑わなかった四国三郎育ちの田舎っぺには大きなショックで、概念の誤りを目のあたりに学んだものだった。豪放磊落、裏のない優しさの熱血漢は、今、白髪をなびかせながら内外に健在である。

普通高校において北野ほど体育活動を充実させている学校は少い。卒業生の言によると、大学の一般体育で北野生は多くの場合他をリードできるという。初め自分でも怪訝に思ったが、リードできればやはり気持ちがいいと多少の感謝を籠めていうのである。体育科的を得た成果の委われかと思ふこともあるが、何よりもそれを包む学校全体の理解の深さによるものであろう。当時の林武雄校長は、節度に厳しく自らも姿勢を正しく闊歩しておられた。自主独立、個人の尊敬を重んじ、生徒には「北野生として恥ずかしくないように行動せよ」とのみ、くどくどしい説教など聞いたことはない。良識によって自らを律するという恐るべき自由である。この校長が体育に非常に理解があった。夏の野球の応援席に、冬のラグビーのスタンドに常に校長の姿があった。

直接運動に関わる場合は運動関係のクラブである。かつて甲子園で優勝したこともある野球部には、ヨチヨチこ

と西田先生と岡田先生、陸上部は今中先生、バスケットボール部は博本先生、バレー部は河原先生と山根先生、テニス部には事故のため無念にも世界の桜舞台を逃された長谷川先生、またの名を馬珍先生が面倒を見ておられた。異色の合気道は書家として既に高名だった阿部醒石先生が指導されていた。岡田・博本・田上・伏谷各先生にはラグビー部をも手伝って頂いており、名実ともに錚々たる顧問であった。

折々には職員の文理科対抗の野球試合があった。初回のマウンドには必ず教務主任であった国友先生がにこにこ立たれた。今や大阪音楽界の重鎮木川田誠氏が捕手を務めた。1塁では悪送球を軽くさばいてくれた田中博先生、二の腕の太さから不動の4番打者となった岡田先生、死球得意の脅威のナチュラルシュート自慢の河原先生など多士済々であった。テニスコートの第1人者は平石先生で、初心者には丁寧に素直な球を返してくれるので人気があった。山根先生もテニスの常連で練習熱心だった。スケートも上手で梅田スケートリンクでのスケート講習会には講師としてお手伝い頂いた。飯田・稲岡・藤尾の諸先生のラケット姿もしばしば見られ運動好きの一面が伺われた。

教員室の重い扉から廊下を一步出たベランダは、グラウンドを臨む絶好のスタンドである。一仕事終えた先生方が気分転換に何となく集ってくる。無用といえば無用ではあるが、しかし、ちょっと味のある暇を過ごせる場所である。目の前で生徒は走り、蹴り、投げ、打っている。自ずから運動する生徒に関心もいこうというものである。生野高校が練習試合に来ていた時に「イクノがキタノ」「キタノがイクノ」などという駄洒落を洩らされたのは伏谷先生だったろうか。英語科の御大島内先生のバットの素振りが見られたのもこのベランダ前だった。

体育的学校の運営に対する職員の協力も、このような職員の運動への理解と積極的協力の上に立って仲々のチームワークで進められていく。こうした学校挙げての支えによって、北野の体育はより充実したものに高められるのである。

嘗々として築き上げられた六稜魂は、おいそれとは崩れないだろうと思いたい。“燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや”六稜の子弟はすべて鳳雛である。名実ともに多彩に輝く鳳凰として飛翔せんがため、教師も燕雀に甘んずることなく、自ら鴻鵠の気を養い鳳雛を遊ばせるに相応しい器を調えねばならないと意気を昂めてきた30年であった。

ののむらひろし先生略歴

昭和9年6月28日、徳島県美馬郡穴吹町のお生まれ。同32年3月、東京教育大学体育学部卒業。

同年4月、大阪府立北野高等学校に奉職。同62年3月、ご退職。同年4月から、大阪経済大学助教授。

この間、昭和40年以來同57年まで、ラグビー国際審判員(A級)を務められた。

想 窟

題字 阿部俊一先生

“北野”と大阪の橋

松村 博 (74期 大阪市計画局都市計画課長)

はじめに

「北野と橋」という題をみて、奇妙に感じられる方も多いただろう。大阪の橋と北野を結びつけたような話題という依頼をもらったとき、ずいぶんとまどった。しかし、北野の歴史と大阪の橋の発展史をオーバーラップしてみるのも一興だろうと考えて、とりとめない文章を書き出すことにした。

まず個人的な話題から始めさせていただく。私の北野時代で最も印象の深い橋は十三大橋である。冬の体育での遠距離走は、校門を出て淀川の堤防へ上り、淀川大橋を渡って左岸を逆上り、十三大橋を渡って返ってくるコースが多かったように思う。十三大橋の長さはおおよそ、680mであるが、かなり疲れているところだから、非常に長く感じられた。それからもう一つ、私は化学クラブに属していたが、淀川の水の塩分濃度を分析しようということで、冬の寒いさ中に一定時間間隔で橋の上から水を採ったことがある。その時の寒さは今だに忘れられない。

船場時代

北野が明治6年にスタートした難波御堂は船場の中央部にある。船場は東西の横堀と土佐堀、長堀の四つの川にかこまれた地域である。明治6年といえば、まだ町並に江戸時代の風情を色濃く残していた時代である。堀川は今日の幹線道路のような役割をはたし、大阪の経済活動を支える動脈であった。当時の市街地は旧東西南北四区で、この中に約200の橋があった。「浪華八百八橋」という言葉は江戸時代から使われているが、橋の実数はほど遠かった。明治初年には高麗橋や心齋橋、新町橋などが鉄橋になり、市民の大評判になっていた。しかし、ほとんどの橋は依然木橋のまま、江戸時代のように橋筋の人々がお金を出し合って日常の掃除や架換えなどを行っていた。つまり町橋の制度が残されていた。

中之島時代

明治10年、北野は中之島の常安町に移って中学校となる。この地は江戸時代の初め、淀屋常安が開発したとされる。この地に近接して、土佐堀川の越中橋、筑前橋、堂島川の田養橋、玉江橋が架かっている。北野へ通うのにこの4つの橋を渡った人が多かったに違いない。おそらく船場方面から多くの人々が通っていたと思われるから、桁檣木橋、淀屋橋、肥後橋といった古い歴史をもつ橋も使われたはずである。肥後橋、筑前橋、越中橋はその名に中之島に多くの藩が蔵屋敷をかまっていた時のなごりをとどめている。田養橋、玉江橋を始め、大江橋、渡辺

橋、それに船津橋は貞享4年(1687)、河村瑞軒によって堂島川の湊津と堂島新地の開発が行われるまでは架けられていなかった。おそらく元禄時代、新地の開発の進展に伴って順次架けられたと考えられる。橋の名前は、それぞれ歌枕などとして有名な大阪の古い地名からとられている。

堂島時代

明治16年、北野は北区堂島浜通の旧中津藩邸へ移る。現在の阪大病院の場所である。この頃、府立の中学校としての基礎が固まっている。この校舎は明治18年7月の大洪水による被害を受けたと考えられる。堂島川・土佐堀川は淀川の本流であったから、古来より幾度となく大きな洪水に見舞われてきた。しかし、明治18年の洪水は未曾有と表現されるほど大きなもので、この洪水によって淀川の橋はほとんどが流されている。中之島周辺では、その時すでに鉄橋となっていた難波橋の北側部分が残っただけであったという。橋が流されたことによって船場から中之島への連絡は閉ざされ、通学にも大きな影響がでたに違いない。ようやく5日後に工兵隊によって難波橋の南側の位置に船橋が架けられている。

明治18年の大洪水によって鉄橋の必要性が認識され、当時の知事の努力によって苦しい府の財政の中から、天満橋、天神橋、渡辺橋、肥後橋、木津川橋の5橋が鉄橋となった。これらの橋が完成したのは明治21年であるから、堂島校舎の新築と期を一にしている。天満・天神橋は当時大阪では最大の橋であったから、両橋が鉄橋になったのは時代の大きな変化を感じさせる事件であった。渡辺橋、肥後橋が鉄橋になったのは、この通りが大阪駅からのメインストリートに当たっていたからである。

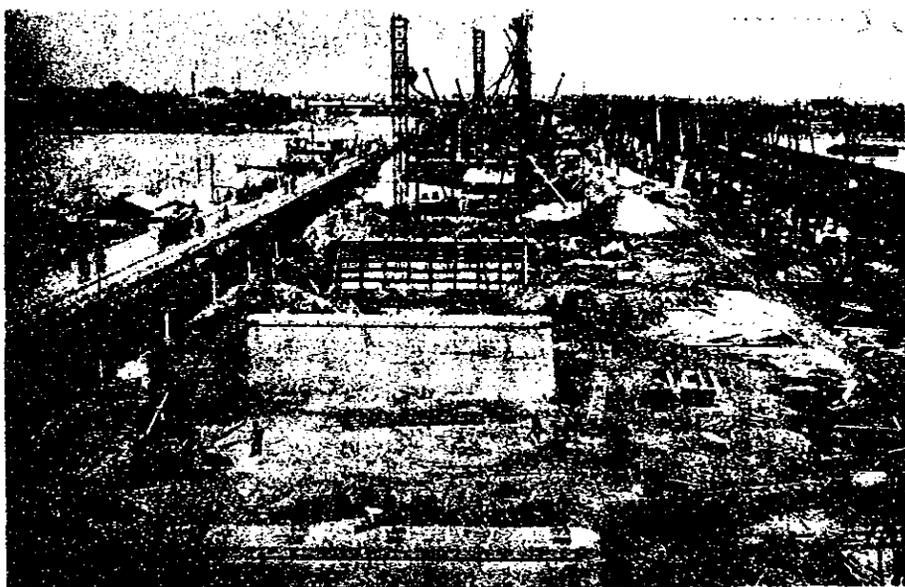
木津川橋がいち早く鉄橋になったのは、明治7年に江ノ子島に府庁が建てられていたためであろう。大阪の街の発展は港の機能を抜きにしては考えられない。まして開国を前提とした街づくりのためには、政治・行政の中核を上町台地から川口に移すことが重要であると考えられたに違いない。このため、木津川橋の近辺には居留地や府庁、のちには市役所も率先して造られた。さらに言えば、松島の開設も都市計画の一環であったかも知れない。このような背景から、木津川橋が早い時期に鉄橋化されたのもうなづける。

北野が堂島にあった時代には、その北側に曾根崎川が流れていた。学校に近い橋では浄正橋と梅田橋があった。いずれも元禄時代に遡る古い橋である。浄正橋は今も交差点名として残っている。梅田橋は古い曾根崎新地の中心部に位置した。近松門左衛門の「心中天網島」の道行の段「名ごりの橋づくし」にその名が登場する。

“……移り香も何と、流れの蜷川。西に見て朝夕渡る此の橋の天神橋はその昔、菅丞相と申せし時、筑紫へ流され給ひしに、君を慕ひて太宰府へたつた一葉び梅田橋。跡追松の緑橋。別れを嘆き恋しみて、跡に焦るる桜橋。”

明治42年に起こった北の大火で曾根崎川の橋のほとんどが焼け落ちた。そしてこの大火で生じた瓦礫によって

工事中の十三大橋（左が旧十三橋）
昭和5年ごろの撮影



上流部が埋めたてられ、最終的には大正時代末期になってこの川は完全に姿を消してしまうことになる。

北野時代

大阪の橋が急速に近代化されるのは、市電事業によって多くの鉄橋が架けられるようになってからである。大阪に初めて市電が走ったのは明治36年であるから、北野が文字通り北野の地に移り、北野中学校となったあくる年である。市街地が郊外へ急速に広がった時代である。市電の事業は単に電車を走らせるだけではなく、広い道路を造るという都市改造の意義も大きかった。大阪駅へ市電が通じるようになったのは、南北線(今の四つ橋筋)が明治41年に開通したときである。船場方面からは、堺筋、北浜を通り、淀屋橋を渡って北へ通じた明治44年からであった。市電の開通によって通学も便利になったに違いない。ただし、運賃はけっこう高かったから学生の身分では乗る人は少なかったかも知れない。

北野時代に行われた大事業は新淀川の開削であろう。大阪にとって淀川の制御は古代から最も重要な課題であった。大阪の中心部を洪水の脅威から開放するためには淀川放水路の建設が不可欠であった。明治30年代から始まった淀川改修事業は明治末に完成する。それ以前は毛馬から下へ中津川という派川が蛇行しながら流れていた。十三の地は大阪から尼崎方面へ通じる中国街道の道筋に当たっていたから、古来より渡しが通っていた。近代になって始めて橋が架けられたのは明治11年のことで、最初は有料橋であった。十三橋は新淀川の開削によって新しく架け直され、始めて鉄橋になった。位置は現在の大橋のすぐ下流で、左岸堤防上に大きな道標が立てられているのでよくわかる。

十三時代

北野中学が現在の場所へ移ったのは昭和6年4月のこ

とである。そして今の十三大橋が完成したのが昭和7年1月であった。昭和の初期は大阪の街が大きく変わった時代であった。大阪市内では大正末から始まった都市計画事業によって広い道路が造られ、公園、下水、地下鉄の建設も進められていた。この事業によって大阪市内の橋の150橋余りが近代橋になった。今日見る桜宮橋、天満橋、天神橋、大江橋、淀屋橋などがこの時代に架けられている。一方、町村合併以前から府下では十大放射線事業が進められており、十三大橋はこの事業によって大阪府の手で架けられた。川の中央には支間長64.0mの鋼タイドアーチ5連が配され、両側にはゲルバー式の桁橋が用いられている。淀川の大橋、中津運河の小橋を合わせて約200万円の工費がかかったという。

構造物のデザインにはその時代の思想が表現されている。現在の北野の校舎が重厚なのは大正12年の関東大震災の教訓から、耐震設計に意が払われた結果であると聞いたことがある。十三大橋が重厚なデザインになっているのも同じ思想が感じられる。

北野に最も近い橋、新十三大橋が架けられたのは戦後の高度成長期である。十三大橋の交通難解消のため、昭和37年から5年をかけてつくられた。この橋の上部工は、鋼床版2主桁橋と呼ばれるタイプで、戦後の技術革新を具現したような橋である。

おわりに

北野の歴史は大阪の近代化の歴史と重なる。大阪の歴史をふり返るとき、その転換期が新しい時代として定着するまでにはやはり百年近い歳月を必要としていることがわかる。その意味で北野の歴史は大阪の橋の歴史とも重なる部分があるのは当然かも知れない。橋を渡られるとき、橋にも深い歴史とその時代の思想が刻まれていることをふと思い出していただければありがたいと思う。

北を目指して……………

岡 沢 憲 美 (75期 早稲田大学教授)



今、この原稿を書いているのはオスローからベルゲンに向かう汽車の中である。毎年この季節になると北欧に来て、仕事をする習慣にしている。北欧との出会いは古い。北野時代に育まれた北への憧れを入れるとそろそろ30年近くになる。1ドルが360円の時代。外貨持出しを制限する大蔵省を恨みながら、有識無産階級・脱日本派の青年は、取敢えず、ナホトカ・シベリア経由でヨーロッパを眺む北方ルートか40日の船旅で優雅にヨーロッパを眺むM・Mライン・南方ルートの切符を手にした。

高度成長を唯一無二のナショナル・ゴールに設定し、「もっと働け、もっと蓄え、もっと消費せよ」と国民を煽った「もっと主義」への疑問がもう一つ別の生き方を模索させた。私は、迷うことなく、北を目指した。当時の北野高校には、学生の中よりも教師に個性派集団が多かった。自我確立期には貴重な環境であった。他人の目を過剰意識する空しさを行動で証明しながら精神的自立を強調された英語の河原先生。超絶的なマイ・ベース主義ですべてを真正面から直視された英語の泉先生。時代と空間を超越した名講義で学生を魅了し、専門知識の自尊を教えて下さった生物の佐賀先生。そして、地球規模の発想と壮大な歴史観・世界観の確立を学生に求めながら、われらアホ軍団を救って救って救いまくった漢文の田上先生。田上先生のリズムカルな講義が作り出す集団的幻想の中で北への憧憧を煽られた学生は少なくないはずである。「北にはロマンと青春と可能性がある。とに角、北を目指せ」。そんな集団催眠状況の中に私もいた。(何人かの学生はミナミではなくキタの繁華街と誤解した)。

60年代に海外に飛出した貧しい学生は、ヤットたり着いた北欧の美しさに感動を覚えたはずである。景色はもちろん、そこに住む人も、とにかく輝いていた。スオミの国境で自由の明るさを、ソグネ・フィヨルドで人と、自然の壮絶な共生を、そして、アイスランドで人間の逞しさを。また、ストックホルムやコペンハーゲンの街角で物質文明のやさしさと寛大を目撃したものである。かなりの決意・工夫・フングリがなければ外国に行けなかった当時の学生にとって、その豊かさは圧倒的であった。厳しい自然環境を考えると、とても豊かさの条件などありそうもない国に、なぜウツリさせるような物質文明が開花したのか。この素朴な疑問が、その後、北欧に何度も足を運ばせることになった。今、眼前に展開しているフィヨルドの爪痕は初めて見た時と同じ。ムンクヤイブセン、それにグリーグを撃出した自然である。

地域研究のテーマとして北欧、特にスウェーデンを選

択するのに時間はかからなかった。国や企業は豊かになってもそこに住む市民には豊かさの実感を与えない戦後日本の政治・経済システムの在り方を考える時、選択は間違っていないかと思う。ナポレオン戦争以後、約180年間にわたって戦争参加を拒否してきた〔反戦・平和の長い伝統〕。戦争で貴重な資源を何度も消滅させた国にとっては、それ一つだけでも研究に値する。また、膨大な国民を移民という形で大量に国外脱出させなければやっていたいなかったヨーロッパの貧しい農業国を、豊かな福祉・工業国家にまで成長させた変身技法はユニークである。この変身過程で、〈平和〉〈自由〉〈平等〉〈機会均等〉〈安全〉〈安心感〉〈連帯〉〈公正〉という政治・経済の基幹理念が構築・精練されてきた。スウェーデンは、感情や感性をギリギリまで抑圧しようとする忍耐力、論理と合理を何よりも優先させようとする冷徹さ(頑固さ)、それに旺盛な冒険精神を基礎に人工的に作上げられた実験国家という印象が強い。ヒューマンな温かさを拒否する超管理社会の香り人間性の解放を究極まで追求めようとする貪欲が共存している。デモクラシーの実験を通じて、未来社会の栄光と苦悩、希望と悲惨を提示してくれる。経済的にはあらゆる税金を導入し、究極の重税国家になっている。(日本で問題になっている消費税は約21%。残る税金は「酸素消費税」とまで言われる税金見本市国家である)。マイ・ベース主義と旺盛な自立(精神、専門知識の自尊と冒険心を武器に、ヨーロッパでも最も貧しい国を世界でも最も豊かな中立・工業国家に変身させたシフトさで極限点をどう突破するのであろうか。〔真の豊かさへの挑戦〕が政策課題になるであろうわが国にとって、経済政策もまた興味深い。

北欧の大学で日本の政治・経済について講義する機会が多い。こうした時には、日本での教育経験が下敷きになる。そして、北欧の大学は北野高校の雰囲気似ていると思うことがある。私の在学していた頃、北野では3つのムードが支配的であった。教科書をベースに流布している常識をもう一度洗い直してみようとする〈懐疑のムード〉。集団主義に埋没したくないという〈自負のムード〉。グランドと教室で鍛えられた分は社会で確実に回収できるのではないかと(楽観のムード)。こうしたムードは共通していたけれども(いや、それだからこそ)、その他の点では、文字通り、バラバラであった。周辺の喫茶店のコーヒーとウエイトレスを採点して他を評価することの難しさを確認する学生、淀川の土手で写真入りの教科書外テキストを乱読する学生、医学書を片手に数日前の快楽を後悔する学生、マニュアル通りに秀才コースを奮進する学生。個人主義の低迷と集団主義の蔓延という日本の教育現場にあってこれは高く評価されてよい。特に、修学旅行という名の団体旅行を拒否した姿勢はお見事。集団旗を先頭に、騒音と集団恥辱を随分もなく撒き散らす日本の旅行スタイルに懐疑の念を持っていた私には歴代校長の決断は爽やかに映った。常識に挑戦する精神と個人主義の尊重は、「経済は一流、教育は二流、政治は評価外」という日本イメージを克服する基盤とな

ろう。

国際化・高齢化・高度情報化・成熟化がこれからの政治・経済政策の指針になるであろう。モノ・ヒト・カネ・情報・サービスの国境線を超えた相互交流が活性化し、地球規模の相互依存が拡大するであろう。教育の現場がこれに対応できるであろうか。国際感覚の育成が強調されよう。この地球にはさまざまな国があり、さまざまな人がいて、さまざまな生き方があることを知ること。そして、さまざまな人と常識を主体的に共有できることが国際人育成の出発点となろう。私の専門領域で言くと、一票格差の徹底は正や選挙権・被選挙権年齢の18歳への引下げから、在住外国人への選挙権・被選挙権付与に突き進み、《地球選挙権》の発想を世界に先駆けて制度化したスウェーデンの英知と感性が世界と常識を共有する姿勢に相応しい。

ハンザ同盟の古い拠点都市であったベルゲンを訪ねた後、フィヨルドで人間の可能性を再確認してから、仕事場であるストックホルムに戻ることになる。北への旅を誘ってくれた北野の森を懐かしく思いながら。

(ベルゲンへの車中にて) 1989年8月15日。

36倍難関突破

52歳 花博メイトに

英語塾講師 日高 穂さん (67期)



来春、大阪・鶴見緑地で開幕する国際花と緑の博覧会で、大阪パビリオン「いちよう館」の案内役となる「いちよう館メイト」の一人に2日、52歳の英語塾講師、日高穂(みのり)さんが36倍の難関を越えて選ばれた。

こうした仕事に就く女性としては、おそらく最高齢(府花の万博協力局)。日高さんは「年齢は気にしたことがない。若い人たちと一緒にいちよう館のイメージアップに努めます」と張り切っている。

日高さんは、海外旅行企画会社などに勤めるかたわら、独学で英語を勉強。10年前からは英語塾で中学生を教えており、3年前英語学校に入って会話を磨いてきた。各国の人たちと交流するのが夢で、昭和45年の万国博でも、民間パビリオンのコンパニオンに応募したが、子育てに忙しく断念。いちよう館メイトに年齢制限がないことを知って最後のチャンスと応募した。

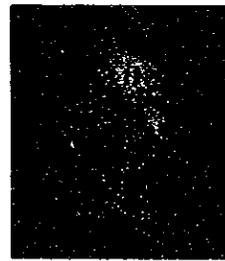
日高さんは「二次試験では若くて背の高い娘さんに困まれて自信を失いかけたので、とてもうれしい。同年配の友だちも「私たちのためにもしっかきやっ」と励ましてくれました。来場者は年配の方も多はず。気配りを生かしてお迎えしたい」と話している。

(1989. 8. 2 読売新聞夕刊)

関西国際空港は成田・羽田につぐ 末っ子だけれども

将来必ず親孝行する空港

生活評論家 丸野豊子さん (66期)



生活様式が根本から変わりつつあるほど、国際化は猛スピードで進展している。にもかかわらず、日本の空港は、女性の目から見ても、きわめて貧弱だという。一昨年、3ヶ月間かけて33ヶ所の世界の空港を見てきた生活評論家・丸野豊子さんは、ファイブ誌の特集で率直に次のような感想を語った。

「海外旅行者が増え日本の生活様式は急激に変わりつつあるが、男性よりも女性のほうが順応性があり海外のものを取り入れる姿勢が旺盛だ。しかし、日本の空港は特に女性のための施設がなくて、世界各国の人を招くにも恥ずかしいくらい貧弱だ。そればかりでなく、HSTマッハ4~5、HSCTマッハ2~3の時代はもうそこまでやってきているのに、それを受け入れられる空港は日本にはない。このままほっておくと、アジアの空の中心はチャンギー空港や北京空港に奪われ、日本沈没になりかねない。やはり、関西新空港には資本投下をして、周辺地域に及ぼす経済波及効果をも期待したい」

村山リウさんと六稜レディスの会

昨年2月にスタートした同会もこの8月で16回目を迎えた。その間、昨年暮には「花外様」にて昼食会をもち、先生直筆の色紙やサイン入りの本の抽選会などの余興に楽しいひとときを過ごした。また、今年7月には「夏・室生寺・静寂へのいざない」と銘うって観光バスで出かけ、橋本旅館別館「静山荘」にて山菜料理、そして先生のお話と、いろいろ工夫をこらしている。毎回50名から60名の聴講生が集り、先生のユニークなお話ぶりで源氏物語を身近に理解できる場となっている。長く続いたこの会も10月24日(火) (午後1時半「ホテルサンルート梅田」会費千円)の18回をもって一応、終了することとなった。永年にわたる先生のお教えに対して心から御礼申し上げますとともに、先生のますますの御健勝をお祈り申し上げます。

お問い合わせ 日高穂(67期) ☎06-854-0524、大下弘子(68期) ☎06-954-3785、山本淑子(69期) ☎06-954-4070、橋本富子(70期) ☎06-372-9337。

六稜文化のルネッサンス

北野高校文化活動振興賞

菅 正 徳 (69期)

昭和60年、62期の有志が提唱し、拠出してスタートした文化活動振興賞(八木彰一郎賞)のことについては、六稜会員の中でも、案外知られていない。本年6月、母校文化祭の当日、第4回目の授賞式が行われたが、本賞は北野高校の文化活動を支える賞としてすでに定着し、文化部に所属する部員はもとより、広く文化活動を志向する現役生の励みになってきている。振興会そのものも、今までの62期の好意という形から、同窓生全体の運営へと広がろうとする傾向をみせており、こころでこの賞の生い立ちと過去の受賞の実態をとり上げ、広く六稜同窓会々員の関心を高めたいものである。

誕生の経緯

昭和58年9月23日、62期八木彰一郎氏は不慮の交通事故で亡くなった。同氏は北野在学中、地歴班のリーダーで、選抜野球優勝の同年、大阪府下の高校社会科研究発表会で優勝、文武両道の母校の名を挙げることに貢献された。

同氏の事故の訴訟を担当し、勝訴に持ち込んだのは、同期の弁護士。未亡人の弁護士費用謝礼を基金にこれまた同期の片山清太郎、川本新一郎、杉原光威、佐藤功、品川潔、伊藤彰彦、田中睦、加藤二郎、森幸彦、山本和市の各氏が賛助拠出し、これら原資の利息金による運営がなされている。

運動部は、各種大会優勝の栄光を目指すことができる。そういう華やかさにもあまりなじまない文化活動を顕彰することは、北野生の文化的レベルを引上げ、ややもすれば、繁栄の中に見失われがちな、真理探究へのたゆまざる努力を奨励する場となるのではないかという期待をこめて発足したのが、この文化活動振興賞である。

昭和63年度の第4回授賞

平成元年6月18日の文化祭当日、第4回授賞式が母校校長室で挙行政され、田上泰昭先生が選考委員を代表して、書道部代表に本賞盾と図書券を贈呈した。授賞対象は「文化祭出展の「王様之を中心として」、近畿高等学校芸術文化祭等における作品発表」であった。

この日の授賞に至るまでには、非常に厳しい選考が行われている。まず、文化部関係顧問の先生方からの推薦を受けて、学校側委員(文系3名、理系3名、文化部総顧問1名の合計7名の北野高校教諭)により、本年度候補が3団体、2個人に選ばれたのは2月上旬である。

団体では、受賞の書道部の他に、演劇部(文化祭「新ベニスの商人」、大阪府高等学校演劇コンクールA地区予選優良賞受賞の「おやめ、眠り犬を起こすのは」)、家

庭クラブ(全国高校長会家庭部会賞、家庭クラブ連盟賞受賞の「知っていますか。あなたの後ろ姿をー・ブラジャーやショーツの選択を通して下着を考えよう」この研究により昭和62年度近畿代表)。

個人では、木村育美さん(化学研究部々長、高校・中学化学研究発表会で奨励賞を受賞した「ホウ酸のガラス状態の結晶化について」)、高木和弘君(全日本学生音楽コンクール、高校ヴァイオリン部門大阪地区第二位)が推薦され、2月18日、選考委員会の審議に付された。この会には、藤枝校長、森教頭、学校側委員7名に、卒業生委員の山本次郎(62期)、瀬戸浩蔵(62期)両氏が加わった。各部の顧問の先生方が作品を展示、熱心に解説される。演奏テープの聴取、発表ビデオの再放送など延々と検討が続く。各委員の厳しい批評は、決して高校生の単なる余暇活動とはみていない選考態度を示している。延々5時間の討議の末に採決で、本年は、書道部授賞と決まったものの、芥川、直木賞もかくやと思われるばかりの真摯な委員会が印象的であった。

これまでの受賞

第一回以降の受賞と代表的な推薦のこぼを列記してみよう。

第一回(昭和60年)

個人 八木剛君(生物研究部)

論文「大阪市西淀川の珍しい昆虫二種」「スズメノヒエ類の病害に関する研究」

(評)自然観察が都市化の進む中でむづかしくなっている。同君は「昆虫も悪い環境になれて、都市化して安定している。それを観察していきたい」と述べ、人間と自然との結びつきを求めていこうとする態度が見られる。表現力も、ファーブルの「昆虫記」に匹敵するなにかを持っている。

個人 篠塚勉君(漫画研究同好会)

第1回広島国際アニメーションフェスティバル、デビュー賞受賞作「風」その他。

(評)36ヶ国451点の中から選ばれたもので大人の世界で立ちうちできる作品として評価できる。

第二回(昭和61年度)

団体 オーケストラ部

新入生歓迎音楽会、文化祭、六校交歓音楽祭等における演奏活動。

(評)ベートーベンの交響曲第6番(田園)を中心とした本格演奏に取り組む態度が評価できる。ほとんどの部員が入学してはじめて楽器を手にするという部活動の中で、OBの指導によるチームワークに注目したい。全国的にも数少ない高校オーケストラ部の伝統を受けつぐ活動は範たりうる。

第三回 (昭和62年度)

個人 渡辺直丈君 (化学研究部)

研究発表「硫酸の三つの性質」「化研誌」創刊。
(評)「日本化学会」の奨励賞を受けた発表だが、教科書の内容を輪のみにしないで取り組むテーマをみつけたところがよい。硫酸の性質についてのこのような具体的なグラフの発表は、化学界でもめづらしいのではないか。

個人 山根暁子さん (美術部)

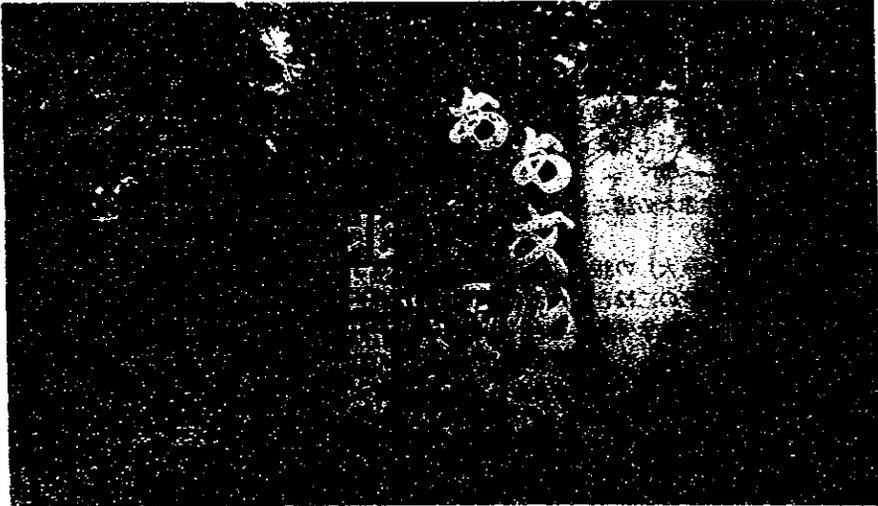
本校美術部員としての制作活動。
(評)昨年度も候補に上った作品活動である。3年になってから、今までの文学的イメージを絵にしたものから、もの自体を絵にするという本格的な

絵画の世界に入って来た。作品としては未完成に終っているが、レベルへの脱皮を評価する。

さて、今年度の文化祭もいつものにぎやかさの中に幕を閉じた。来年度の授賞に向けて、あらゆる文化部、個人の活躍が目される。後輩達の真摯な文化活動に胸ときめかすことは、同窓生としてうれしい。この文化活動振興賞が、今后ますます北野文化の向上に寄与することを期待したい。

終りに、今回、振興賞規約中の「選考委員の構成」の項で、62期卒業生代表という文言が「卒業生代表若干名」と改正された。本会の広がりを表わすものであろう。また、本会の意義に賛同して寄付を申し出ている同窓生もおられる。北野文化のルネッサンスの夜明けである。

本年度の文化祭から



6月18日、文化祭当日
通用門前の立看板



ロックバンド演奏に湧く
視聴覚教室の熱気

六稜同窓会だより

第36回生の北野中学時代 亀井英太郎

大正7年北野中学に入学、当時は軍国風潮の強い時代であったから、制服は濃紺の小倉服、靴は黒皮の短靴、白ゲートル着用と定められていた。雨天以外は始業の鐘と共に運動場に学年別、組別に整列し、組受持の先生により出欠確認、服装点検後、教官の「駄ヶ足」の号令で運動場を一周(約400米)後、「わかれ」の号令で教室に入るのであるが、必ず脱靴、教室へは靴下又は素足で廊下を歩いて入るのであるが、冬期は辛い思いであった。困苦欠乏に耐えよとの軍の精神教育の一つであったと思う。そして、登下校の際、先生に出会った時は必ず挙手注目の敬礼動作を執るよう規則づけられていた。今の学生諸君が見られたら、定めし奇異に感じられるだろう。

当時は上級学校(高校、各種高等専門学校)への受験には英、数が主要重点科目であったから進学率の高かった北野では先生、生徒共に自然と熱心であった。私が教わった先生方は

英語一南部、木村、鈴木、宇津木の諸先生

数学一片山、竹中の先生

であるが、伯父(北野→一高→東大)の話では英語の程度の高いのは東京府立一中と北野の二校と聞かされていたが、私の場合英語の受験(高校進学受験のため)には参考書は余り漁らずに済ませた。そして入学(四高、文甲)後も英語では他校から入学した級友に比べ苦勞しなかったことは前記の諸先生のおかげと信じている。

私達第36回卒業生は年令は皆80才を越えている。京阪神在住の者が相集り、三六会という会名のもとに、年二回定期的に集っている。

六稜四五会(昭和7年卒) 富田・佐藤

平均年令74才の我々は、去年より本年にかけ、生存者の数が卒業時の半数以下になった。7年振りで名簿を改訂したところ、卒業全員270名中、連絡のつかない40名は別にして、生存者は112名になった。この方々の健康状態をアンケートによりみると、解答者96名中、自己診断で(1)よい者16名、(2)普通50名、(3)一寸気がかり27名、無答3名であった。お互いこれからの毎日は心して有意義に送り、悔いのない人生を全うしたいものとの念を切にした。

さて、懇親会は5月18日、夕刻5時半より、大阪駅前第3ビル33階の中国大飯店で水島先生をお迎へして開催した。暮れなぞむ大阪北西部を俯瞰、淀川越しの北中校舎は距離的には見える筈だが大阪駅舎の高層の陰になり見え、時空共に昭和一桁も遠くなったものかと感嘆久しくした。外の暮色に比べ、室内は久し振りに童心(?)にかへり、明るく3時間の歡をつくした。

六稜昭五会近況報告

小寺幸正

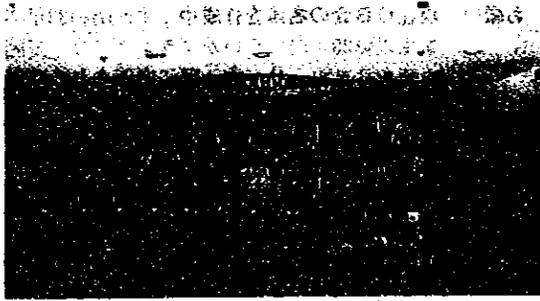
昭和5年3月3日北中卒業生の同窓会を「六稜昭五会」と名付けて今に及ぶ。最初は私が昭和23・4兩年度母校の学制改革当初の北野高校教諭の段階で、手当たり次第集まって貰って母校会議室で開催したのが嚆矢である。

於笑面観光ホテル(昭和35年)卒業30周年祝賀行事を盛大に催した。暫らく中断が続いたが昭和40年代に入って間もなく復活した。会報も発行される様になった。磯崎君や高木君が編集に当って来た。会報第11号では、昭和61年5月19日大阪市北区(元大淀区)中津公園で除幕式(杉村春子女史臨席)披露宴会(三井アーバンホテル)挙行関係記事が筆ら別別に同級生森本薫君文学碑特集号も発行された。毎年早春の候乃至春分の候總會を青藤幹事等のお世話で大阪で開催、足立・田中(治雄)・中村(周吉郎)・中橋・米田(一彦)・小寺・白羽・嵐等各君の卓話を年1回宛聴いた。東京支部も形成されて矢張年1・2回会合して旧交を温めつゝある。事務所は大阪市北区芝田町1-10-2第一山中ビル内の公認会計士齊藤定男(同級生)事務所に設置して各連絡を取り扱って居る。平成元年7月1日付第14号発行(111頁)の会報は第13号以来拙者と阿岐野君の共同編集だが、幸にして内容充実せりと好評を博しつゝある。右事務所風景や總會出席者一同の写真が掲載されて居る。説苑欄では工学博士田中治雄君の「私の歩んだ道のおおよそ」と題して技師生活振りを同わせる。随想欄では角谷君が「わが机辺」・「筆滴二題」を、山田光賢君が「阿修羅と土堀」を、大森郁乎君が「映画監督になった息子を語る」を、広瀬一郎君が「思い出すまに」を、嵐君が「命日は背中に書いてある」を、浅川君は「天皇制について」を、三谷君は「昭和64年の一里塚で」・「大阪文学碑の件」を、中島君は「自社(綜研化学)紹介」を、寄せて賑やかなことだ。編集人からは「北野百年史」から北中在学時代の弁論部記事を抜粋した。詩歌欄では西浜君が「青葉木葉」十五句を、角谷君が「道」三十首を寄せた。Yellow Tail君は自分史欄で思い切って「我が母校学業成績一覽」を北中・浪高・京大の進学順に通知簿通り落第点含めて正直に公表したのが目立つ。又彼は教職歴一覽も掲げた。更に彼は「物語欄」で「武庫峯夫先生行状記」巻一和泉高女の巻と巻二草部中学校の巻を寄せて自叙伝式小説風に特異な師弟関係に焦点を当て、教壇内外の裏面史を痛烈に描き出して居て面白い。雑報欄では平成元年3月26日D Dハウスでの總會や東京支部の報告、会員便り、会計報告、訃報が集められた。追悼欄では池田・白井・森・吉川・小野各君への追悼文を掲げた。そして平成2年は正に卒業満60周年に当るので第15号を其記念号にしたいと目論見つゝある。第14号御希望者は昭五会事務所まで。

六稜五一会

卒業50周年記念総会の開催と

記念文集の発刊



昭和13年に北野中学を卒業した五一会の会員は、その卒業50周年を記念して、去る63年9月3日東洋ホテルにおいて盛大な総会を開いた。お招きした4先生のうち、赤坂・大谷両先生はお見えになれず、土屋・小林の両先生だけの出席となったのは淋しかったけれども、特に招いた4名のご遺族の他、遠方からも馳けつけた67名の会員など73名の参加を得て大盛況であった。

会は本幹幹事の司会で進められ、物故者への黙禱のあと、代表幹事の石津一貫は、「卒業後満50年。276名を数えた卒業生は、戦争による大きな犠牲と戦後多くの病没者を出した結果、今日140数名の消息が確認されるに止まっている。まことに痛恨に耐えない。しかし今夕その半数の旧友がここに集ったのは嬉しい限りだし、後刻発表する予定の記念文集によって、会員の絆はより一層強まることと信ずる。」旨の式辞をのべた。そのあと土屋・小林両先生の含著多い訓話や、遺族を代表しての馬場亮子さんの挨拶、会員有志の近況報告などが続いた。ホテルのシェフの腕によりをかけたご馳走が並び、アルコールの入るにつれてあちこちに人々の輪ができて、お互いに久闊を叙しつつ健勝をたたえあった。歓談1時間のあと、今永の音頭で元気一杯校歌と応援歌を斉唱したあと、一旦会を閉じて記念文集の発表に移った。

編集委員を代表して辻が簡単に経過を報告した。五一会の卒業50周年記念文集は、2年前の総会の席で決議され、爾来数名の委員が献身的に編集に当って、この日の出席者に初めて頒布された。恩師5名、ご遺族7名、会員93名合計105名の寄せられた玉稿と投稿者の近影、それに50年前の卒業アルバムと新たに集った写真類を編集した、A4版154頁、ネービーブルーに金字で「六稜の青春讃」と校章を打ち込んだ垢抜けた装丁となった。寄せられた文章は、さすがに50年の年輪に裏打ちされた多彩な内容であった。当然のことながら北中時代の思い出に連なるものが多く、豊富な写真類と併せて、古稀に近づきつつある会員にとっては、遠い青春のモニュメントがここにでき上った。苦しい経過ではあったが、卒業50周年の記念事業としては有意義であったと思う。

(辻 道雄 記)

平成元年記念名簿刊行委員会より

先にご案内申しあげました通り、急提、六稜同窓会名簿を発刊する運びとなりました。従来より名簿の発刊は5年毎と決めておりましたが、105周年の時、諸般の事情により発行を見送り、以後10年に一度としましたが、前回110周年時発行から6年経過し、若い方々からの要請が多く、急提平成元年記念号を発行することに致しました。何分にも6月に決定したために準備不足であり、基金の重要な財源である名簿広告収入及び「消息不明者」の未確認等不備の点がありますが、次回120周年記念名簿発行の礎となれば幸いと考えております。8月末現在の名簿申込は好調であり、3000部限定では不足しそうな現況です。

3・25 六稜69期大集合

50歳の青春と銘打って、去る3月25日、「ホテルサンルート梅田」に昭和32年卒(69期)の124名が大集合した。当日午前中は、母校ラグビー部の近畿大会準決勝。啓光学園戦を観戦するグループ、母校にてテニスを楽しむグループ、会場別館に用意された囲碁・将棋を楽しむグループ、など自由な過ごし方をしたあと、5時半より、太陽の間にてパーティが開催された。

会場には会員の手による絵画、写真、書道、刺繍、俳句などが展示され、会員企業の製品即売会も。中国語を楽しむ会による中国語劇、全員集合クイズで万歳などの催しもあり、北野時代にもどって一夕の宴を満喫した。

御出席の先生方は、筆石敏吉、北原富男、西田曉夫、寺田正一郎、石田千代之輔、中島直巳、高田貞子、稲葉憲一郎、博本正和、今中利信の各先生であった。

六稜六期対抗ゴルフ大会

60人の大コンペ、優勝はまたも68期

昨年の四期対抗戦が、六期対抗、60人の大コンペに発展した。8月26日(土)、の西宮高原カントリークラブは、ほとんど六稜一色。67期から72期までの選抜選手各10人が、各期の名誉をかけて闘ったが、会そのものは和気あいあい、六稜同窓生のつどいとしてのきずながますます深まった。競技方法は各期の1、2、3、5、7、9位のグロス合計により、次のとおりとなった。

優勝、68期、合計ストローク546。2位、67期、561。3位、71期、564。4位、72期、565。5位、69期、575。6位、70期、592。

本会々長代行、前田隆弘君(67期)より、大カップが優勝の68期キャプテン高野裕士君に二年連続手渡された。また、ベストグロス賞は79の好スコアで向坂隆君(70期)が手にした。

なお、12月1日(金)には、クラブ対抗戦も企画されている。運動文化クラブを問わず、各部5名で一組、参加希望のクラブOBは下記まで。

関西ルネッサンス研究所 ☎06-203-7521

土井陽子さん (64期)

の作品パンフレット



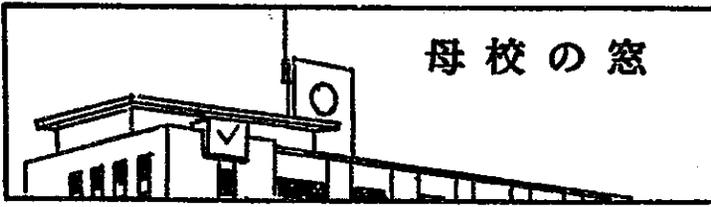
「六稜サッカー部OB会発足」

昭和23年に発足し、昭和24年卒業生(61期)が創部第一期生となっております。従って今年度で創部40周年となりOBの数も400名です。お願い 現在OB会の名簿を作成中ですが昭和33年卒業生以降20年間くらいがブランクになって困っております。サッカー部に在籍された方はご連絡下さい。

連絡先: ☎560 豊中市東泉丘3-36-8 D-208
 藤波寿太郎 ☎06-849-7807
 ☎532 大阪市淀川区新北野2-5-13
 北野高校サッカー部 顧問 丸山明先生宛 ☎06-303-5661

大学合格者一覧表 (1.5.2 現在)

立	男	女	計	九州大	4	1	5	武蔵野音楽大	1	1	神戸女子大	2	2	東京理科大学	1	1				
北海道大	6	5	11	長崎大	1	1	1	明治大	5	5	神戸女子薬大	19	19	大阪外語専門	1	1				
滋賀工業大	1	1	2	大分大	1	1	1	明治学大	1	1	松蔭女学院大	5	5	大阪経済大	1	1				
香取大	1	1	2	鹿児島大	1	1	1	明治薬科大	1	1	昭和女子大	1	1	大阪法律専門	1	1				
弘前大	1	1	2	合計	52	119	32	立教大	1	1	聖和女大	1	1	関西保育専門	1	1				
東北大	10	10	20	公立	男	女	計	早稲田大	30	3	33	兵庫医科大	1	1	2	国際外語専門	1	1		
筑波大	1	1	2	高崎経済大	4	4	4	聖マリアンナ大	1	1	1	武庫川女子大	6	6	廣台法科専門	1	1			
埼玉大	1	1	2	横浜市立大	1	1	1	朝日大	1	1	1	流通科学大	1	1	中の島美術学院	1	1			
千葉大	1	1	2	東京都立大	1	1	1	中京大	1	1	1	合計	25	23	48	日本コンピュータ	1	1		
東京大	17	2	19	岐阜薬科大	1	1	1	大谷大	1	1	1	旭大	3	3	3	日本ビジュアル	1	1		
東京外国語大	1	1	2	静岡薬科大	1	1	1	京都外語大	6	6	6	大阪大医技短	3	3	3	クワンザン女子大	1	1		
東京工業大	1	1	2	愛知薬科大	1	1	1	京都産大	1	1	2	神戸大医技短	2	2	2	New South Wales	1	1		
東京芸術大	2	2	4	名古屋立大	2	2	2	京都女子大	1	1	20	20	三重短大	1	1	1	合計	4	12	16
東京水産大	1	1	2	名古屋市立大	1	1	1	京都精華大	1	1	2	2	滋賀県立短大	2	2	2	就職	男	女	計
お茶の水女大	1	1	2	京都府立大	1	4	5	京都薬科大	1	12	13	13	京都府大短	1	1	1	国家公務員	1	1	1
一橋大	2	2	4	京都府立短大	1	1	1	同志社大	50	21	71	71	青山学院短大	1	1	1	大阪市公務員	1	1	1
新潟大	1	1	2	大阪女子大	8	8	8	同志社女子大	8	8	8	8	成城短大	1	1	1	合計	1	1	2
富山県立大	1	1	2	大阪市立大	20	19	39	ノートルダム女大	2	2	2	2	東洋女子短大	1	1	1	62年(一昨年)	男	女	計
金沢大	3	3	6	大阪府立大	16	7	23	立命館大	12	14	26	26	上智短大	1	1	1	国立	27	17	44
徳島大	2	2	4	神戸市外大	2	2	2	龍谷大	2	8	10	10	京都女子短大	8	8	8	公立	28	46	74
山梨大	1	1	2	神戸商科大	4	3	7	仏教大	1	1	1	1	同志社女短大	4	4	4	私立	27	31	58
信州大	1	1	2	姫路工業大	1	1	1	大阪医科大	5	1	6	6	聖母女子短大	1	1	1	短大	70	70	70
名古屋大	6	6	12	奈良県立医大	1	1	1	大阪経済大	1	1	1	1	大阪短大	1	1	1	大学	3	1	4
名古屋工業大	1	1	2	和歌山県立大	1	1	1	大阪工業大	2	2	2	2	大阪産業短大	1	1	1	専修	11	11	11
三重大	3	1	4	北九州大	2	2	2	大阪産大	1	2	3	3	大阪女子短大	1	1	1	就職	1	2	3
滋賀大	4	1	5	合計	55	47	102	大阪商科大	1	1	2	2	関西外語短大	1	1	1	合計	57	50	107
滋賀医科大	2	1	3	私立	男	女	計	大阪薬科大	10	10	10	10	相愛女子短大	1	1	1	国立	25	113	138
京都大	51	5	56	青山学院大	2	3	5	大阪薬科大	1	1	1	1	大手前女子短大	1	1	1	公立	70	45	115
京都教育大	3	3	6	大妻女子大	1	1	1	大谷女子大	1	1	1	1	関西女子短大	1	1	1	私立	31	33	64
京都工職大	6	2	8	学習院大	1	1	1	追手門学院大	1	1	1	1	関西女子短大	1	1	1	短大	62	62	62
大阪大	72	8	80	国際義塾大	17	3	20	関西西大	35	47	82	82	甲南女子短大	1	1	1	大学	62	52	52
大阪外国語大	3	11	14	関西学院大	1	1	1	関西西大	2	1	3	3	神戸薬学短大	1	1	1	専修	2	10	12
大阪教育大	20	20	40	国際基督教大	1	1	1	関西外国語大	2	2	2	2	神戸女子短大	2	2	2	就職	1	1	1
兵庫教育大	1	1	2	上智大	1	2	3	近畿大	5	5	10	10	神戸女子短大	1	1	1	就職	6	6	6
神戸大	23	21	44	成城大	2	2	2	摂南大	1	4	5	5	松蔭女子学院短大	6	6	6	合計	76	58	134
神戸商船大	1	1	2	成城大	1	2	3	相愛大	1	1	1	1	武庫川女短大	5	5	5	元年(本年)	男	女	計
奈良教育大	3	3	6	多摩美術大	1	1	1	帝國女子大	1	1	1	1	帝塚山短大	2	2	2	国立	52	110	162
奈良女子大	9	9	18	中央大	4	4	4	帝塚山学院大	4	4	4	4	合計	55	56	111	公立	55	47	102
和歌山大	3	3	6	津田塾大	1	1	1	梅花女子大	2	2	2	2	専大	1	1	1	私立	25	38	63
鳥取大	1	1	2	東京造形大	1	1	1	鶴山学院大	1	1	1	1	筑波大学短大	1	1	1	短大	1	1	1
鳥辺大	1	1	2	東京女子大	2	2	2	大手前女子大	1	1	1	1	筑波大学短大	1	1	1	大学	2	2	2
岡山大	7	2	9	東京理科大	5	5	5	関西学院大	34	55	89	89	合計	2	2	2	専修	4	12	16
広島大	8	2	10	東洋大	1	1	2	甲子園大	1	1	1	1	専修学校等	男	女	計	就職	1	1	2
徳島大	1	1	2	日本大	1	4	5	甲南大	5	15	20	20	合計	1	1	1	合計	59	56	115
愛媛大	1	1	2	日本女子大	1	1	1	甲南女子大	4	4	4	4	大阪外語専門	1	1	1				
高知大	1	1	2	文化女子大	1	1	1	神戸学院大	1	1	2	2	大阪外語専門	1	1	1				
高知医科大	1	1	2	法政大	1	1	1	神戸女子短大	8	8	8	8	大阪外語専門	1	1	1				



母校の窓

職員異動

森 延哉 S62~H1 教頭
長谷川正夫 S59~H1 事務長
吉本 憲子 S38~H1 主事
土屋 順一 S60~H1 英語
西尾 佳子 S62~H1 養護助教諭
の先生方がご転勤・ご退職されました。(3月31日付)

森先生は池田北高等学校の校長に、長谷川先生は淀川工業高校事務部長に、土屋先生、西尾先生はそれぞれ千里高校、東能勢中学校へ移られました。後任として、原田彰教頭先生(本校65期)を八尾高校定時制教頭から、本田豊裕事務長を盾津高校事務長から、また以下の諸先生方を4月1日付で、お迎えいたしました。

宗平大三郎	英語	北千里高校
吉田 久昭	地学	今宮高校
田中 秀康	数学	三島高校
竹上 栄	英語	長尾高校
山本 正人	地理	港高校
藤井 洋子	国語	常勤講師
足立 和美	養護助手	豊中養護
西山 秀代	主事	新任

御不幸

昨年12月に白井 規夫先生(現職S62年4月~S63年12月 英語)がお亡くなりになりました。

本年9月に萩原雅雄先生(旧職S37年4月~S45年3月 化学)がお亡くなりになりました。

心から御冥福をお祈り申し上げます。

第四回文化活動振興賞決定

16ページにご報告しましたとおり、賞選部に決定しました。

御寄贈をいただきました

52回(昭和14年卒)より、卒業50周年記念に15万円相当を植樹いただきました。

藤田邦昭氏(57回)より、山岳部インターハイ出場を記念し、戦時中の登山部の山行・行軍の記念バッヂなどバッヂ7点を御寄贈いただきました。

堀 幸清氏(51回)より、在学中の福知山演習や運動会の模様を撮影した16mmフィルム4巻を五一会を通じて本校に御寄贈いただきました。ともに貴重なお品をありがとうございました。

クラブだより

1. 8. 1 現在

【陸上競技】

大阪高校地区別秋季陸上競技大会100m、上山崇、11秒0。(参)5000m、三村義雄、16分04秒9。第39回全国高校駅伝大会大阪予選12位。三村、山田、池本、尾田、野本、河村、幸田、2時間24分19秒。第42回大阪インターハイ地区予選、100m、児島陽子、13秒1。400m、梅本卓史、52秒0。第42回大阪インターハイ。200m、上山崇、22秒75。200m、児島陽子、27秒51。800m、瀬戸川雄一、2分01秒83。4×400mR、梅本、上山、辻岡、高坂、3分27秒01。第57回大阪選手権、3000mSC、金森功晃、10分05秒1。

【ラグビーフットボール】

公式戦、全国大会予選、25-0池田北、20-13桐蔭、24-0千里、41-6阪南、6-16富田林。近畿大会予

選、29-0東住吉工、24-3東狭屋川、32-3関大一、41-0豊中、29-0桐蔭、34-22浪速工、優勝。近畿大会、35-4報徳、16-9伏見工、9-27啓光。春季大会、64-4桜塚、22-0阪南大、6-7柏原。定期戦、34-0洛北、32-0神戸、23-0天王寺。

クラブ名簿の連絡先

六稜ラグークラブ

〒541 大阪市中央区横堀2-32

(梅月内) 青山政雄 ☎231-4919

【女子テニス】

第一学区杯、横井・福岡組第3位、奥村ベスト8、山路、河崎ベスト13、サンケイ杯、福岡・奥村組、河崎・野島組ベスト16。定期戦0-5市岡4-3天王寺。

【男子テニス】

公式戦、パンクラフト杯、金本ベスト8。夏季大会、金本・阿武野ペア赤坂杯準優勝。ウィンタージュニア、金本B級3位。春季赤坂杯、大西本戦1回戦。定期戦、対市岡5敗、対天王寺2勝5敗。

クラブ名簿の連絡先

〒562 箕面市瀬川4-24-15

能勢和昭 宛(キャプテン)

【女子バスケットボール】

定期戦、33-56天王寺。大阪高校総体、62-38高槻北、20-116薫英。府立高校大会、39-41島本、38-53東淀川、28-65池田北、58-51三島、38-66茨木。新人戦、36-39渋谷。全国大会予選、66-33門真西、46-29四条畷北、32-40刀根山。

クラブ名簿の連絡先

豊中市北条町4-6-1-613

西田麻美

【男子バスケットボール】

公式戦、大阪高校総体、83-53桜塚、対大阪学院、負。大阪新入大会、対春日丘負。大阪高校選手権、98-19扇町、76-35星光学院、54-51大塚54-44布施、49-52桃山学院。定期戦、四高定期、57-78神戸、70-30灘、天高戦43-58負。

【バドミントン】

近畿大会予選、男子、単3回戦進出
複4回戦進出、団体ベスト16。
インターハイ予選、男子単5回戦進
出、団体ベスト32、女子団体3回戦
進出。

【男子バレー】

公式戦、府立高大会(予選)、2-1
渋谷、2-0島上大冠、2-1三島。
府立高大会(中央大会)、0-2寝屋
川。秋季部別、0-2上宮、0-2
河南、2-1追手門。春高バレー、
2-0摂津、0-2藤工。春季部別
0-2三島、0-2関大、2-1
茨木。近畿大会(予選)、2-0今宮、
2-0泉尾、2-0島上大冠、0-
2東海大仰星。定期戦、0-2天王
寺。

クラブ名簿の連絡先
秋田浩二

豊中市豊南町南4-6-22-301
☎332-2479

【サッカー】

公式戦、夏季大会、1回戦7-0園
芸、2回戦0-5摂津。冬季大会、
2回戦0-1吹田東。春季大会、1
回戦1-1淀川工(PK勝ち)、2回
戦3-1門真、3回戦2-1文野、
4回戦1-1金岡(PK負け)。
定期戦、1-2藤所、2-0天王寺。

【合気道】

文化祭での演武にむけて、部員全
員一丸となって練習をつんだ。6月
下旬、和歌山県立新宮高校を招き、
大阪府下の高校合気道部合同練習を
行った。8月上旬、天之武産合気塾
道場にて夏期合宿。

クラブ名簿の連絡先
北野高等学校合気道部

【硬式野球】

公式戦、秋季大会、2-8大阪商。
春季大会、3-1太成、2-9藤井
寺。大阪大会(夏)、0-10堺市立工、
定期戦、0-12市岡。5-3天王寺。

【水泳】

大阪高校対抗、男100自9位、岸本。
新人戦、男200自7位(岸本、竹本、
東原、素)。

定期戦、対市岡勝、対大手前負、対
堺尼崎負。三校戦(対天王寺、高津)
2位。

【卓球】

大阪総体、2回戦敗退(団体)、個人
戦ダブルス男子ベスト64、シング
ルス女子ベスト64。全日本選手権ジュ
ニアの部、男子4人が2次予選へ。
大阪新チーム大会、男子ベスト32。
春季北摂大会、女子団体ベスト4、
男子団体ベスト8。インターハイ予
選、男子ダブルス第一地区ベスト8。
男子北摂大会、優勝、2回戦対箕面
3-2、3回戦対東淀川3-0、準
決勝対大商3-2、決勝対豊中3-
2。
定期戦、対市岡、秋10-3勝、春9
-6勝、対天王寺8-7勝。
六段杯、秋優勝仲上俊二、竹村由紀、
春優勝井手毅、田中恵美子。

【器械体操】

2部大会、男子団体総合5位。府立
高大会、規定の部、男子団体総合
5位、種目別、ゆか6位(岡澤)、鞍
馬4位(岡澤)。大阪高校総体、男子
団体総合2位。新人大会、男子団体
総合優勝、男子個人総合4位(田村)、
9位(沖)、種目別、平行棒3位(沖)。
春季大会、男子団体総合優勝、個人
総合優勝(沖)、2位(田村)。

クラブ名簿の連絡先

〒532 大阪市淀川区新北野2丁目
5番13号
北野高校器械体操部

【女子バレーボール】

府立高大会、2-0高槻北、0-2
東豊中。秋季部別大会、0-2北千
里、0-2女短附、0-2阿武野、
(二部降格)。春高バレー予選、2-
0金剛、0-2芥川。春季部別大会
2-0富田林、2-1寝屋川、0-
2市岡商(二部残留)。近畿大会予選
1-2鶴見商。大阪高校総体女子バ
レー部決勝トーナメント、2-0教
大池田、準々決勝2-1薫英、準決0
-2金光第1、4地区第三位。

クラブ名簿の連絡先

〒532 大阪市淀川区十八条3-5-39
古澤いづみ ☎06-391-2173

【ソフト】

大阪高校総体2-7薫英。夏季公立
大会2-0清友、6-3八尾内、3
-6美木多、2-3大和川。秋季部
別3-6東大阪。春季公立大会0-
9門真南、1-7清友、0-3岸産、
2-9長野、3-8美木多、4-9
市岡商。入替戦3-10日新、Bリ
ーグ降格。全国総体予選5-6住吉学
園。

クラブ名簿の連絡先
本校内ソフト部宛

【柔道】

公式戦、大阪高校総体、対大塚勝、
対堺工業勝、対守口負。大阪スポ
ーツ祭典、対茨田A勝、対東淀工A負。
阪大招待試合、対神戸負。北地区新
人戦、対豊島負。学年別1年A対豊
中A勝、対茨工負、B対北陽A負、
2年A対追手門勝、対東淀川A勝、
対少路負、B対東豊中勝、対池田B
負。京大招待試合3位。府予選北地
区大会、対箕面東勝、対関大1勝、
対追手門負。天高戦、点取負、勝抜
負。

クラブ名簿の連絡先

〒561 豊中市庄内東町6-8-4
福田 稔 宛

【ハンドボール】

男子・公式戦、定期戦戦績、
新人戦、対東淀川14-13、対都島工
業3-29。春季総体、対吹田東32-
8、対東豊中24-12、対大阪商業8
-28。天高戦、対天王寺25-15(新
人戦)、13-15(現役戦)。

女子・公式戦・定期戦戦績

天高戦、対天王寺15-16(新人戦)、
26-25(現役戦)。公式戦、対少路13
-7、対直真2-56。

【山岳】

大阪秋季登山大会、男子1位女子1
位。大阪春季登山大会、男子1位女
子1位。今年はインターハイに男女
とも出場します。夏は立山-薬師岳
方面です。平成元年度全国高等学校
総合体育大会第33回全国高等学校登
山大会、男子26位(46校中)、女子26
位(45校中)

【剣道】

公式戦、大阪高校総体(男)対牧野勝、対桜宮負。(女)対守口北、堺市立工勝、対西浦負。北摂大会(男)対春日丘負、(女)準優勝。全国大会府予選(男)対大阪、池田、春日丘勝。中央大会対明星負。(女)対鳥飼勝、対渋谷負。

定期戦、三校戦女子団体優勝、対大手前男女共負、対天王寺男女共勝。

【オーケストラ】

国民文化祭(ふるさとの四季・ラデッキー行進曲)。六校交歓音楽祭(エグモント序曲)。扇町教会音楽礼拝。文化祭(ベートーベン交響曲第七番)に出演。住吉高校主催の六校交歓音楽祭に向けて頑張っている。

【コーラス】

大手前との交歓会「アベマリア」他2曲。六校音楽祭「ひとつの朝」他2曲。文化祭「遠かなものを」他男声合唱3曲、女声合唱を2曲発表。

【E・S・S】

文化祭での英語劇「白雪姫」。外人講師による英会話。部誌作成。スピーチコンテスト出場。

クラブ名簿の連絡先

大阪市西淀川区竹島3-3-16
三宅治栄 宛 (☎06-472-9511)

【鉄道研究】

当会は昨年11月に結成。近鉄の日本最大規模の工場見学、運転会に参加。

【フォークソング研究同好会】

文化祭講堂部門に参加。10曲演奏。

【新聞】

六校新聞第150号～第153号の発行。ワープロ版新聞RNC通信の創刊。部員5名で活動中。

【文芸】

「幻」年五回発行。文化祭で北野文学第49号発行と「三島由紀夫」研究。

【書道】

文化祭展示。テーマ良寛。講堂で席書。全大阪高等学校書道コンクールで優秀賞二点、全大阪書芸連盟賞一点、書道教育研究会賞一点。近畿高等学校総合文化祭(福井県)一点出展。ブロック展(豊能地区総合文化祭)六点出展。大阪芸術文化祭五點選出。

クラブ名簿の連絡先本校内書道部宛

【放送】

本年4月、第10回KBS京都・全国民間放送連盟主催「こちら青春放送局」で優秀賞を受賞。第11回の応募作品を制作中。文化祭に放送劇「水護-suiko-」を上演。

クラブ名簿の連絡先

〒563-01 豊能郡豊能町光風台5-19-4 岸田 真 宛

【物理研究】

無線、パソコン、電子工作等の活動。

【美術】

第40回高校展に20点出品(8月)。豊能地域文化祭出品(10月)。第1ブロック展出品、ポスター・案内状のデザインが採用される(1月)。

【漫画研究同好会】

88年7月連合漫画祭参加。文化祭で別冊発行。89年7月連合漫画祭参加、パンフレット作成。

【コンピュータ同好会】

文化祭ではパソコン実演と展示。

【化学研究】

高価な薬品を購入し例年とはちがった実験をすすめています。

【生物研究】

今春、部誌「LUPE」26号発行。淀川の昆虫を調べる会会員として調査続行中。文化祭では淀川の昆虫・魚類、アサガオの短日処理の観察結果、校内樹木分布図の展示を行った。

【園芸同好会】

文化祭では朝顔の苗と種やドライフラワーの配布。葉脈のしおりを作る等、新しい試みに挑戦しました。

【料理同好会】

大阪ガスクリスマス料理講習会参加。文化祭でクッキーの家等展示。

【地学研究】

天文雑誌への投稿や十月の地学クラブ発表会・交歓会(外部)出席予定。

山岳部インターハイ 男女大阪代表に!

— 石鐘山の全国大会に参加 —

六校山岳部OB 林 閑二 (69期)

我が六校山岳部は、北野中学登山部及び北野高校山岳部の卒業生並びに歴代顧問の先生方まで、明治から昭和にわたる約300名で組織され、毎年現役への支援活動を初めとして、新人歓迎会、夏山報告会や総会を開催(共催)することにより、学年や時代を越えた様々な交流や親睦を深めるに至っております。

ここで、現役の活動をふり返ってみますと、4年前のインターハイ全国高等学校登山大会府予選にて女子部に優勝、秋田県での本大会に北野高校山岳部員の女子4名と顧問の先生1名が初参加しました。この時は六校山岳部からの浄財が大会出場への要として活躍しました。

その後、現役の諸君は全国大会出場へのノウハウを詳細に研究し、日常の研鑽に励み、登山や訓練の実績を重ねた結果、今年度はインターハイ府予選で、男子の部、女子の部に見事アベック優勝。大阪代表として全国大会への出場を決定しました。さっそく支援体制が固められ、7月29日(土)の午後、六校ティールームで本大会出場選手男子4名、女子4名、顧問2名の壮行会を挙行。

平成元年度全国高等学校総合体育大会、第33回全国高等学校登山大会(スローガン=競え技、結べ友情さわやかに)は、8月2日から6日まで四国愛媛県赤石・石鐘山系で開催され、その結果、男子の部、女子の部共々順位は26位に終わったものの、全国に「大阪府立北野高校」の名をとどろかせてくれたものと確信しております。

最後に、この地味な山岳部のインターハイ出場に六校同窓会よりの多大の援助を賜りましたことに山岳部関係者一同大いに感激、感謝している次第です。

プロフィール
 サロンコンサート
 「ショパンの夕べ」の
 西水佳代さん(94期)



ポーランドにピアノ留学中の西水佳代さんが一時帰国し、8月26日夜、ポロネーズ、マズルカ、練習曲などその成果を披露してくれた。相変わらずの瘦身ながら、2年間の異国での修業は、彼女をそのピアノ・タッチと共に、一層逞しいものにしていった。

1963年兵庫県に生まれる。3歳より母に手ほどきを受け、後に右近たい子、遠藤秀一郎、金沢桂子、小林仁の各氏に師事。

1979年カワイピアノコンクールにて金賞を受賞。

1983年相愛大学入学、内田胎子氏に師事。

1987年同大学卒業後、ポーランド・ワルシャワにあるショパン音楽院に研究生として留学。カジミエジュ・ギエルジョード氏に師事。

1989年6月同音楽院修了。その間ワルシャワを中心として各地で演奏活動を行う。

彼女が日本ショパン協会関西支部研究会々員として、その会報に、ワルシャワから昨年3月に送っていた「ワルシャワからのたより」の中の抄文を紹介しておく。

「こちらの勉強の仕方でも印象的なのは舞台で、又

は小さなサロンやホールにしてもとにかく人前で演奏する、ということをお前提にしていることです。そしてその機会はしばしば与えられ、最も良い状態で臨めるように準備されるのです。音楽院の中の大きなホールでは定期的(月2回)に学生オーケストラの演奏会や他にソロの演奏会もたびたび開かれ、又小さなホールでは何人かの学生による小さな発表会のようなものも毎週のように行われます。学外からの学生への演奏の依頼も多く、それらの演奏会はほとんど入場無料であるのに多くの会場がそれでも成り立っており、全く無名の学生のために見ず知らずの人たちがどこからともなく集ってくれるということは、私にとっては全くの驚きでした。それは、別に何の情報があるわけでも何の目的があるわけでもなく、ふらりと本屋に立ち寄るような感覚に似ているような気がします。そんな時は、ただ店の中をぐるりと廻るだけでもなんだか楽しいし、ふと手に取った本に思いがけない発見をしたりすると何か得をした気分になるし、かといっておもしろい新刊書が出ていなかったからといって腹が立つわけでもないし……。

こちらに来てからピアノに向うのがとても楽しく、人前で演奏する時もハリのむしろに立たされるような恐ろしさもなく、とにかく何かを弾こうという気になれる自分が不思議でしたが、こちらの人々のこのような音楽に対する感覚によって作られる雰囲気のおかげかなと思うようになりました。物質も豊富にはなく、決して便利とは言えない国ですが、大らかで表には減らさないけれど反骨精神を持ったたたかなポーランド人の中で、とても充実した毎日を送ることができて本当に幸福だと思います。」

なお、ショパン音楽院は相愛大学音楽学部と姉妹提携をし、院長のカジミエジュ・ギエルジョード氏は同大学の名誉教授でもある。万代株式会社副社長の西水啓介君(88期 山岳部OB)は彼女の長兄。(Y・T)

新刊紹介

詩学社刊「輪ゴム宇宙論」

柳内 やすこ(旧姓阿部)(88期)

著者の柳内康子さんは、本校在学中に旺文社主催文部省後援の全国文芸コンクール(詩部門)で優勝されました。同級であった私は受賞作品を読ませていただきましたが、10年以上経った今でもその作品は強く印象に残っています。本校卒業後、大阪大学人間科学部に生まれ、文化人類学を専攻されましたが、その後再び詩作に取り組み、現在詩誌「アリゼ」同人として活躍しておられます。

柳内さんの詩にはこの詩集のタイトルに象徴されるように独特の時間と空間のとらえ方があり、その視点に新鮮さが感じられます。また人間の生の不思議さ、不確かさ、はかなさ、そしてそのような生を限りなくとおしむ気持ちちがどの作品にも溢れています。

(英語科 馬淵早智)

岩波文庫(青)「仁学」

譯者同著 西順蔵・坂元ひろ子訳

清朝末期、日清戦争にも敗北し、列強による半植民地化への路をたどりつつあった中国の救済に志した多くの中国知識人のひとり、譯者同(1865-98)という思想家がいる。かれは、西洋の自然科学、政治思想を学び、儒教的封建制度・君主制を攻撃し、康有為らの「戊戌変法」に参画したが、西太后ら保守派のために失敗し、従容として刑場の露とよめた。

かれの変法理論を述べたのが、「仁学」という書物で、この難解な書物の邦訳が、最近、岩波文庫にはいった。訳者のひとりである坂元ひろ子氏は、本校81期の卒業生であり、一橋大学の西順蔵氏のもとで中国思想史の研鑽をつんでこられ、現在、山口大学教養部助教授である。本校の卒業生の名が、青岩波文庫のリストの中に加えられるのはまことによろこばしいことなので、あえて紹介の筆をとった。(図書館 野尻和正)